第52回　公開研究発表会

2021
6.19

英才教育の追究

知能開発を目指した学習指導
考える力を育てる保育

発表会要項

聖徳学園小学校
聖 徳 幼 稚 園

教育目標

1　一人ひとりの子どもの個性を育てる
2　知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる
3　正しい心、優しい心、たくましい心を育てる

お誓い三か条

一、われわれは　未来をひらく戦士となり
　新しい世界を　開拓します
一、われわれは　恥と涙をわきまえて
　光明正大に　行動します
一、われわれは　祖国の伝統を重んじ
　祖国と人類のために　つくします

発 表 会 要 項

主　題　英才教育の追究

◦知能開発を目指した学習指導
◦考える力を育てる保育

幼稚園

体育あそび

造形あそび

英語あそび

リトミック

小学校

百人一首大会

スポーツカップ２年

校外授業５年小金井公園

スポーツカップ４年

第 52 回　公開研究発表会に当たって

～知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる教育～

聖徳学園小学校長
聖 徳 幼 稚 園 長　和　田　知　之

「氷が溶けたら何になる？」という問いに対して、「水になる」という答えだけではなく、「春になる」と言った柔軟な発想を大切に育てていきたいという願いで、1969 年（昭和 44 年）に、個性の伸長と知能教育を基本にした英才教育を開始しました。以来 52 年間、「知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる教育」を目指して、

○主体的に学ぶ態度、意欲と集中力の育成

○知能開発～創造的知能の開発と育成～

○一人ひとりの個性と能力に応じた指導～能力の限界への挑戦～

を重点にした教育活動を重ねてきました。

●意欲と集中力の育成で知能と学力の向上

我が国では最近、小学生から大学生に至るまで学力低下の問題が話題になっています。その原因として、子どもたち自身の学習意欲と集中力の低下が大きな要因ではないでしょうか。

知能や学力の向上はもとより、子どもたちが将来社会で活躍していく上でも重要な資質は意欲と集中力になるとの考えから、私たちは幼稚園から小学校低学年までは、まず意欲と集中力の育成に重点をおいています。積極的な意欲と集中力のある子どもの場合は、仮に学校での学習時間や内容が少なくなっても、それこそ「1 教えたら 10 学ぼう」とする意欲を発揮して、自分から主体的に学習を進めていくことができ、また習得率も高くなるからです。

入園したばかりの年少児（3 歳児）の知能あそびを見ていると、一つの遊びに集中できる時間はせいぜい 15 分から 30 分程度です。なかには、教師の説明はほとんど聞

けず、周囲のことが気になり立ち歩くなど、なかなか集中して取り組めない子もいます。それが3学期頃になってくると、ほとんどの子が40分ぐらいは集中が持続出来るようになってきます。年長児（5歳児）になると、与える教材（遊びの内容）さえ適切であれば、80分間の知能あそびの時間が過ぎて昼食の時間になっても、「もっとやりたい!」言って、遊びを継続することもしばしばです。

このように幼稚園時代は、一人ひとりの子どもをよく観察していると、見違えるように意欲と集中力が身についてくることが分かります。この幼児期の3年間の成長は、小学校入学後の3年間の成長の比ではありません。特に、高学年になっても意欲と集中力が十分身についていない子どもの学習指導は、大変苦労が伴います。ですから、私たちは幼稚園と小学校の指導上の連携を深め、3歳児から3年生ぐらいまでは、意欲と集中力の育成､つまり主体的に学ぶ態度を育てることに重点をおいているわけです。

こうした意欲と集中力を育成していくためには、日頃から授業（遊び）研究を深め、授業内容や方法に工夫が必要になることは言うまでもありません。子どもたちが授業（遊び）に意欲的に集中して取り組む条件としては、

○学習（遊び）内容に興味・関心があること

○難易度が適切であること

○学習内容に発展性があること

等が重要な要素になってきます。ですから聖徳では、平素から教材研究と教材・教具の作成にはかなり力を注いでいるのです。こうして低学年の間に、意欲と集中力を育成しておくと、高学年になるにつれて学力もめきめきと向上してきます。

よく聖徳学園小学校の卒業生は、中学や大学への進学実績が高いが、どのような受験指導をしているのかと言ったような質問を受けます。学校では、特別な受験指導をしているわけではありませんが、受験においても意欲と集中力、知能教育の成果は、結果的に大きなプラスになっていることは事実です。このことは、中学受験より大学受験と上級学校になればなるほど、効果を発揮しています。

●創造的知能の開発と育成

意欲と集中力の成果は、学力の向上だけではありません。創造的知能の開発と育成にも大きな成果を発揮してきます。

創造性の教育成果は、評価することはなかなか難しいのですが、一例として発明協会が毎年実施している、「東京都児童生徒発明くふう展」での成果を紹介します。聖徳では、毎年夏休み明けの9月に自由研究展を開催します。これにはほとんど全員の児童が、自分の興味・関心に基づき課題を見つけて、それについてまとめたり製作したりした作品を出品しています。児童によっては、小学校6年間一貫したテーマで研究を継続して取り組んでいる者もいます。この中から、校内審査を経て「東京都児童生徒発明くふう展」に該当する作品を30点（1校あたり30点までに限定）出品します。その結果、毎年20点くらいの作品が入賞し、これまで33回「学校賞」を受賞しました。そして東京都代表として全国コンクールに出品され、毎年作品が入賞しています。

こうした成果を過分に評価していただき、今までに文部科学大臣から8回目の「創意工夫育成功労学校賞」を受賞いたしました。このように、創造的知能の開発と育成では成果を上げてきたように思っています。この創造性の開発と育成の条件を、これまでの実践結果から要約すると概ね次の通りです。

① 創造的態度を育成する
　意欲・集中力・好奇心・根気・いろいろ工夫する態度等
② 個性を啓発して伸長する
③ 創造的知能を刺激し育成する
④ 直観力（直観的思考・ひらめき）を育成する
⑤ 個性と創造性を認め合える学校環境を整える

等です。本日の授業の様子から、少しでも汲み取っていただければと思います。

●個性と能力差に対応した複数指導（担任）制

子どもの個性や能力･発達段階は、一人ひとり異なることは言うまでもありません。これに対して一人ひとりにきめ細かな指導をしていくためには、まず少人数による学級編成が必要になってきます。少人数といっても、学校では子ども同士が学び合い、刺激し合い、切磋琢磨しながら成長していく側面も大きいので、あまり1学級の人数を少なくすることには教育効果の上で感心しません。また、小集団でなければ、自分の力を発揮できないような子どもに育てても困るのです。

そこで聖徳では、昭和54年度から1学級の人数は30名にして、個人差が顕著な知

能訓練や数学の授業において、2人指導制を試みました。これは一つの教室に2人の指導者が入って授業を進めるわけですから、2人の綿密な連携が前提になりますが、個別学習に重点をおく知能訓練や数学の授業では、かなり効果を発揮することが明確になってきました。

現在、複数指導（担任）制を実施しているのは、

幼稚園では、学級担任　カリキュラムあそび

小学校では、学級担任　知能訓練　ゲーム　工作　数学（1～3年生）です。

また、学年が進むにつれて能力差は段々広がってきますので、数学と知能訓練では3年生から、そして国語と英語は5年生から能力（習熟度）別にクラス編成して授業を進めております。そのために、一人ひとりの子どもがゆとりを持って授業に取り組み、各自の能力の限界に挑戦することが可能になります。

本学園では複数指導（担任）制のねらいを、

①　できるだけ多く（複数）の教師の眼で一人ひとりの子どもを指導する

②　一人ひとりの子どもの個性と能力差に対応したきめ細かな指導をする

この2点においています。本日の授業を通して、複数指導（担任）制の利点を見ていただけたらと思います。

以上の通り、聖徳の教育の基本的な考え方と本日の公開授業（保育）の視点を簡単にまとめておきました。私たちの趣旨を少しでもご理解いただければ幸いです。

また、本日の授業（保育）内容につきましては、「懇談会」において、意見交換していきたいと思います。このところ学校教育のあり方について関心を集めておりますが、21世紀を生きる子どもたちの健全な成長を求めて、皆さん方と共に理想的な授業のあり方を追究していきたいと考えております。コロナ禍であることと皆さまの感染リスクを考え、今年度はオンラインで実施することにしました。

本日は、ご参会いただき誠にありがとうございました。

目　　次

第52回　公開研究発表会に当たって …… 5
発表会要項（時程表） …… 11

幼稚園の指導案
◇**公開保育**〈9：15～10：00〉
本日の公開保育について …… 17
3歳児（1組）「クラス活動（知能あそび）」 …… 18
3歳児（2組）「クラス活動（造形あそび）」 …… 21
4歳児（1組）「造形あそび」 …… 23
4歳児（2組）「英語あそび」 …… 25
5歳児（1組）「知能あそび」 …… 27
5歳児（2組）「リトミックあそび」 …… 31

小学校の指導案
◇**公開授業**〈9：20～10：20〉
1年生（1組）「知能訓練」 …… 37
1年生（2組）「音楽」 …… 41
2年生（1組）「国語」 …… 43
2年生（2組）「知能訓練」 …… 45
3年生（Aクラス）「数学」 …… 49
3年生（Bクラス）「数学」 …… 51
4年生（1組）「国語」 …… 53
4年生（2組）「地理」 …… 56
5年生（1組）「理科」 …… 58
5年生（2組）「歴史」 …… 60
6年生（1組・Aクラス）「英語」 …… 63
6年生（1組・Bクラス）「英語」 …… 65
6年生（2組）「リーダー・イン・ミー」 …… 67

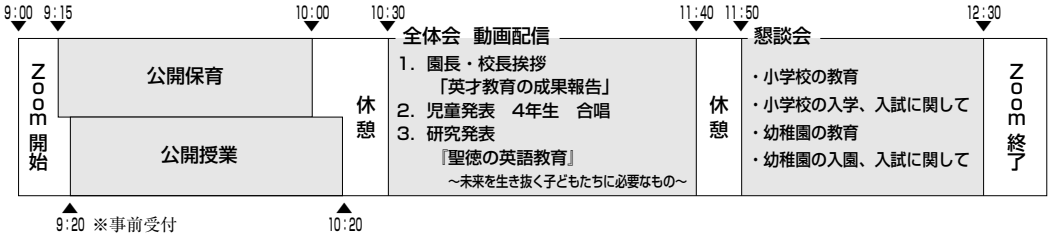
全体会〈10：30 ～ 11：40〉……69
挨　　拶「英才教育の成果報告」
児童発表　4年生　合　唱
研究発表「聖徳の英語教育」
～未来を生き抜く子どもたちに必要なもの～

令和３年度の研究活動計画
研究部の活動計画 …… 73
知能教育研究部の活動計画 …… 75
国語科研究部の活動計画 …… 76
数学科研究部の活動計画 …… 77
英語科研究部の活動計画 …… 78
理科研究部の活動計画 …… 79
地理科研究部の活動計画 …… 80
歴史科研究部の活動計画 …… 81
体育科研究部の活動計画 …… 82
音楽科研究部の活動計画 …… 83
美術科研究部の活動計画 …… 84
家庭科研究部の活動計画 …… 85
研究発表会の歩み …… 87

発　表　会　要　項

1．主　題：英才教室の追究
　　知能開発を目指した学習指導（小学校）
　　考える力を育てる保育（幼稚園）

2．時　程



3．内　容

(1)　公開保育及び公開授業

◇　**公開保育**（幼稚園　9：15 ～ 10：00）

年齢	組	領　域	あそび設定の視点	あそびの題目及び内容	頁
3歳	1組	クラス活動 知能あそび	拡散思考力を育む指導	「同色のものさがし」 ～お弁当に入っている赤いものは、なあに？～	18
	2組	クラス活動 造形あそび	創造力を育む二人指導	「お部屋を水族館にしよう」 ～スタンピングで魚作り～	21
4歳	1組	造形あそび	創造性を引き出す二人指導	「虫を作ろう」 ～身近な素材を使って～	23
	2組	英語あそび	個性や興味・関心、能力に応じた英語指導	「いろいろな動物の名前」 ～英語でなんて言うのかな？～	25
5歳	1組	知能あそび	図形構成力を育む指導	「漢字パズル」 ～街にあふれる漢字を作ろう～	27
	2組	リトミック あそび	想像力を豊かにする表現活動	「拍子の聞き分けできるかな？」 ～忍者屋敷からの挑戦状～	31

◇　**公開授業**（小学校　9：20 ～ 10：20）

学年	組	教　科	授業設定の視点	授業の題目及び内容	頁
1年	1組	知能訓練	見通し力の開発と育成を目指した指導	『変形本双六』 ～すべての持ち駒を早くゴールするには？～	37
	2組	音　楽	イメージ力の育成を目指した指導	文部省唱歌『うみ』 ～3拍子を感じながら海をイメージして歌おう～	41

学年	組	教　科	授業設定の視点	授業の題目及び内容	頁
2年	1組	国　語	興味・関心に応じた学習指導	『なぞなぞ詩を作ろう』 なぞなぞの仕組みを使って詩を作る	43
	2組	知能訓練	パズルを通して推理力を育てる指導	『線路図の完成』 ～見通しを立てて考えよう～	45
3年	1組 2組	数学A	規則性を発見し、それを活用する力を育む指導	『階段の上り方』 ～上り方は、何通りあるかな？～	49
		数学B	“先を読む”力を育む指導	『数学ゲーム　マーブルズ』 ～きまりを見つけ必勝法を考える～	51
4年	1組	国　語	イメージの停滞からの脱出	「左の手」花岡大学・『うろこ雲』所収 イメージとしての身体を自覚する	53
	2組	地　理	地形図を用いて、人びとの暮らしを想像させる指導	『三宅島の地形図』 ～地形図をたよりに、三宅島に住む人びとの生活を考えよう～	56
5年	1組	理　科	実験を通して科学的な見方（推理力・評価力）の育成を目指した授業	温度の違う空気の動き方を実験・考察する中で、風と天気の関わりを考えます	58
	2組	歴　史	人物伝学習Ⅱ・井伊直弼の生い立ちを追い幕末を学ぶ	大名の子である直弼が、北のお屋敷でどんな生活を送ったかを想像します	60
6年	1組	英語A	興味・関心を広げ、発話したくなる英語表現を探る	太陽系の惑星の特徴等を表す英語表現を通して、比較・最上級を含む文に慣れる	63
		英語B	興味・関心を広げ、発話したくなる英語表現を探る	太陽系の惑星の特徴等を表す英語表現を通して、比較・最上級を含む文に慣れる	65
	2組	リーダー・イン・ミー	協力することで、自分自身の役割を見つける指導	『紙コップタワーを作ろう』 ～コミュニケーションをとることで見えてくる役割～	67

⑵　**全体会**　（10：30～11：40）動画配信

＊　挨　　拶　「英才教育の成果報告」　　園長・校長：和　田　知　之

＊　児童発表　　4年生　　合　唱

＊　研究発表　『聖徳の英語教育』

～未来を生き抜く子どもたちに必要なもの～

英語科主任：藤　石　勝　巳

⑶ **懇談会**　（11：50 ～ 12：30）Zoom による

＊　懇談会は、下記の四つの分科会に分かれて行います。

<table>
<tr><th>分 科 会 名</th><th>主　　題</th><th></th><th>主な出席教員</th></tr>
<tr><td rowspan="2">幼 稚 園 教 育</td><td rowspan="4">本日の保育・授業をもとに</td><td>創造的知能の開発と育成を目指した学習指導
考える力を育てる保育
（保育内容についてお知りになりたい方は、こちらの懇談会にご参加ください。）</td><td rowspan="2">幼稚園担当者</td></tr>
<tr><td>幼稚園の教師を目指している方</td></tr>
<tr><td rowspan="2">小 学 校 教 育</td><td>創造的知能の開発と育成を目指した学習指導
知能開発を目指した学習指導
（教科教育についてお知りになりたい方は、こちらの懇談会にご参加ください。）</td><td rowspan="2">大河内教頭
知能訓練担当者
小学校担当者</td></tr>
<tr><td>小学校の教師を目指している方</td></tr>
<tr><td>幼稚園の入園に関すること</td><td colspan="2">幼稚園の概要および入園についてお知りになりたい方はこちらにご参加ください。</td><td>松浦教頭
幼稚園担当者</td></tr>
<tr><td>小学校の入学に関すること</td><td colspan="2">小学校の概要および入学についてお知りになりたい方はこちらにご参加ください。</td><td>校長
小学校担当者</td></tr>
</table>

幼 稚 園 の 部

本日の公開保育について

本園では、「自由保育」を実施しておりますが、その主な活動は、

自由あそび

カリキュラムあそび

の２つの方法で進めています。

カリキュラムあそびは、

◇知能あそび　◇体育あそび　◇リトミックあそび

◇造形あそび　◇英語あそび　◇理科あそび

の６つのあそびがあります。

４歳児・５歳児は、この中の６つのあそびの中から２つのあそびを設定しました。

３歳児は、年齢や実態を考慮して、クラス活動の中でカリキュラムあそびを取り入れて、進めています。

本日の活動は下記の通りです。

	9時15分～10時00分		内　容
3歳児	1 組	クラス活動 （知能あそび）	「同色のものさがし」 ～お弁当に入っている赤いものは、なぁに？～
	2 組	クラス活動 （造形あそび）	「お部屋を水族館にしよう」 ～スタンピングで魚作り～
4歳児	1 組	造形あそび	「虫を作ろう」 ～身近な素材を使って～
	2 組	英語あそび	「いろいろな動物の名前」 ～英語でなんて言うのかな？～
5歳児	1 組	知能あそび	「漢字パズル」 ～街にあふれる漢字を作ろう～
	2 組	リトミックあそび	「拍子の聞き分けできるな？」 ～忍者屋敷からの挑戦状～

クラス活動（知能あそび）指導案

9：15 ～ 10：00

※通常、年少組では、クラスごとに自由あそびと４つのカリキュラムあそびを行っているが、本時は、年齢や実態等を考慮して、クラス活動の中に知能的な遊びを取り入れながら進めていく。

指導者　**松　浦　雅　美**
園　山　恵理子
小　池　順　子

１．年　齢：3歳児

２．あそび設定の視点：拡散思考力を育む指導

３．教材名：「同色のものさがし」～お弁当に入っている赤いものは、なあに？～

４．本時刺激される知能因子：記号で単位を拡散思考する（DSU）

５．本時のねらい：示された色のものを、数多く思いつくことにより、記号で単位を拡散思考する能力を育てる。

６．教材について

ペットボトルのキャップ、乳酸菌飲料のボトル、キャンディの袋、包装紙……。ゴミの分別の話では決してない。これらは全て『知能あそびにつながる大切な素材』である。言い方を変えるならば、知能を刺激するための材料は、身近にたくさん溢れている。身近だからこそ、子どもたちは自然に興味を示してくれることが多いので、私たちは日々、様々なところにアンテナを張りながら教材作成をしている。逆に、教材を作った後で「これは、あの遊びに通ずるものがある！」と思い返すことも然り。本時の教材は、正に“あの遊び”に似ている。

昔「♪い～ろいろ、どんな色♪」と歌いながら、『色おに』という遊びを経験した人は多いのではないだろうか。鬼が指定した色のものを探し、その色に触っているとセーフ……という単純なルールだが、自分も夢中になって遊んだ。子どもは、色という題材一つでも楽しく遊んでしまう。

『色おに』は、お題の色を、目の前に見える色のものから探せば良いが、本時の知能あそびは、楽しさに加えて、知能を刺激するためのスパイスが入っている。

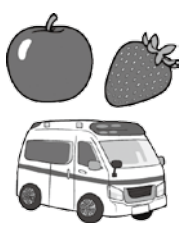
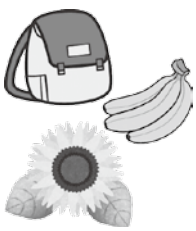
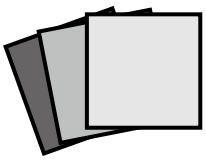
私たちの身の回りにある、いろいろな色。「りんごは何色？→赤！」「バナナは？→黄！」「牛乳は？→白！」などなど。このように事物の名称を言えば、それらの色を次々に言えるであろう。

ここで少し視点を変えて『赤いものは？』『黄色いものは？』『白いものは？』という発問方法にするとどうだろうか？　目の前にないものを、自分が知っている事物の引き出しから、指定の色のものを引っ張り出して来なくてはならないため、難易度がグッとアップする。この点が認知力とは違う、本時刺激をする拡散思考力の奥深さである。初めは考えに詰まってしまったとしても、お友達の発言を聞きながら、また、手先を動かしながら、発想を広げていくきっかけがつかめる展開を心掛け、子どもたちにとって、刺激の多い時間となるようにしていきたいと思う。

７．園児の様子

毎日元気に登園し、お友達といろいろな遊びを共有しながら幼稚園生活を楽しんでいる子どもたち。新しい活動にとても敏感で、「先生は、今日は、何をお話しするのだろう？」と好奇心旺盛な瞳を輝かせながら日々過ごしている。本時は、こういった意欲に加え、子どもたち自らの発想を大切にしていくことで、自分の考えに自信を持って活動ができるように見守っていきたい。ただ、年齢的に、まだ、長い時間の集中が難しかったり、いつもとは違う状況に戸惑ったりすることが予想されるので、複数指導の目で、それぞれの考えをきちんと受け止めていこうと考えている。

８．本時の指導過程

教材の内容及び活動	指導上の留意点
1. あいさつ・出席確認	○本日の健康状態等も把握する。
2. 展開 (1) 指定された色と同じ色をもつものを数多く思いつき発表する。 （問題例） ①赤色のものは、なあに？ ②黄色いものは、なあに？ （予想される発言） ①  ② 	Ｔ（指導者）1：色をイメージし易いように色カードを提示しながら発問する。 ※例えば「いちごは、赤と緑！」というような解答が出た場合は、大いに認め、その後に活かしていけるよう、心掛ける。 Ｔ２：子どもの発言をホワイトボードに記録し、意欲付けにつなげる。 Ｔ３：それぞれ、子どもたちの間に入り、聞きもらしている子どもがいないか、またイメージができているかを把握し、適宜助言をする。
(2) 指定された色と同じ色をもつものを数多く思いつき、紙で作ってお弁当箱に詰めていく。 ※扱う紙は、折り紙・お花紙など。 	Ｔ１：紙の扱い方（丸める・くしゃくしゃにする裂く等）について説明をする。 素材の感触を味わいながら手先を存分に使うことを念頭に置いて指導する。 Ｔ１・Ｔ２・Ｔ３：“お弁当”という設定は、あくまでもイメージをし易くする一つのきっかけであるので、お弁当の中身ということに拘らず、自由な発想（例えば赤い中央線を作ったとしても）を認めていく。
3. 片づけをする。	○すみやかに片づけられるよう、指示する。
4. おわりのあいさつをする。	○本時の活動を振り返り、次回にも期待が持てるようにする。

９．評　価

活動後、本時の内容を振り返り、子どもたち一人ひとりの取り組みの様子を指導者間で確認し本時のねらいが達成できたかどうかまとめ、次回へとつなげる。

クラス活動（造形あそび）指導案

9：15 ～ 10：00

指導者　荒　井　明　子
永　坂　圭　子

1．年　齢：3歳児

2．あそび設定の視点：創造力を育む二人指導

3．主　題：「お部屋を水族館にしよう」～スタンピングで魚作り～

4．主題について

今までは絵の具を手で触ったり、筆で絵を描いたりという経験は造形あそびでもしている。前回の活動では、大きな紙にローラーで色塗りをして、海を表現した。今回は、「タンポ」や「色紙」使って、自分のイメージした魚を工作していく。絵の具の混色を楽しんだり、模様を楽しみながら、個々の発想を引き出せるよう援助する。仕上がった魚たちを飾って、お部屋全体を水族館にしていきたいと思う。

5．園児の様子

入園して2か月が経ち、子どもたちも少しずつ園生活にも慣れてきた。自由あそびでは好きなあそびを見つけ、安定して遊べるようにもなり、また、4つのカリキュラムあそびにも興味を持って取り組む姿が見られるようになってきた。それぞれのあそびの楽しさを理解し取り組めるようになった。造形あそびでは、作品になる喜びを感じているところである。

6．本時のねらい

絵の具で描くことでできる模様や混色を楽しみながら、魚作りを楽しめるようにする。

7．本時の指導過程

教材の内容及び園児の活動	指導上の留意点
1. 始まりの挨拶をする。	T（指導者）1・T 2：活動に入る挨拶をする。
2. 本時の内容の説明を聞く。	T 1：本時の活動内容を説明する。 T 2：子どもたちの聞く様子を観察しながら、個別に声をかけ理解できるよう援助していく。
3. 魚を作ろう。 魚の土台を作る Ⅰ 紙皿と色紙をもらう。 Ⅱ 鰭や尾を好きな形に切る。 Ⅲ 紙皿に貼る。	T 1：自由に色紙を切るように、声をかける。 T 1・T 2：はさみの使い方は個別に指導しながら援助していく。 T 1・T 2：机間巡視しながら、できた鰭などをテープで貼る。

スタンピングをしよう Ⅰ クレパスで目を描く。 Ⅱ 自分の好きな絵の具をスタンプ台でタンポにつけ、魚の土台に色つけをしていく。 Ⅲ いろいろな絵の具をつけ混色を楽しむ。 Ⅳ 乾かす。 Ⅴ ２匹目の魚作りに取り掛かる。	Ｔ１：クレパスは強めに描くよう声かけをする。 Ｔ１・Ｔ２：混色しすぎないよう個々に様子を見ながら援助していく。 Ｔ１：どんな模様ができるか声がけをしながら、模様作りを楽しめるように進めていく。 Ｔ２：出来上がった魚を飾っていく。
4. 片付けをする。	Ｔ１・Ｔ２：テーブルの上をきれいに片づけるように声をかける。
5. 出来上がったら鑑賞する。	Ｔ１：出来上がりをみんなで楽しめるような雰囲気を作る。
6. 挨拶をする。	○次回の活動に期待が持てるようにする。

８．評　価

子どもたちが意欲的に取り組み、それぞれの表現を楽しむことができたかを指導者間で確認し、評価していく。

造形あそび指導案

9：15 ～ 10：00

指導者　磯　沼　美　紀
高　井　正　恵

1．年　齢：4歳児

2．あそび設定の視点：創造力を引き出す二人指導

3．主　題：「虫を作ろう」～身近な素材を使って～

4．主題について

緑に囲まれた園庭では、たくさんの虫たちが子どもたちの興味関心を引き出している。子どもたちは、土を掘っては幼虫を見つけたり、石の下やプランターの下からダンゴムシを見つけるのに夢中だ。また、みかんの木と柚子の木には毎年アゲハ蝶が卵を産みに来るので、幼虫を見つけては虫かごに移し、さなぎからアゲハ蝶になって羽ばたいていく姿をキラキラした目で観察している。中には図鑑を開いて調べ、興味を掘り下げる子もいる。そんな子ども達の大好きな虫を、家から持ってきたトイレットペーパーの芯を使い、紙工作で表現しさまざまな虫づくりを行なっていきたい。虫も工作も大好きな子どもたちなので、どんな作品ができるか楽しみだ。のびのびと活動ができればと思う。

5．園児の様子

自由あそびの時間に、空き箱やいろいろな紙素材を使って工作を楽しむ姿が見られる。色紙やペンを使って工夫したり、工作したものを使って遊びを広げたりと日常の中で造形的な活動を好む子どもも多い。年中組に進級し、ハサミやのりも経験を重ね上手になってきた。

今回は、自分のイメージした虫を、色画用紙や芯を使い、子どもたちがさまざまに想像を膨らませて、造形あそびを行なっていければと思う。

6．本時のねらい

自分の思い描いた虫を、色画用紙や芯を使い、表現していく。

7．本時の指導過程

教材の内容及び園児の活動	指導上の留意点
○グループごとに、テーブルに座る。	○机にカバーをして準備をする。
1. 始まりの挨拶をする。	T（指導者）1：これからの活動に期待を持てるように説明していく。
2. 本時の内容の説明を聞く。 • 園庭で見つけた虫を出し合う。 • 図鑑や写真を見せながら、いろいろな虫を紹介していく。 • どんな特徴があるか考えて発表し合う。	T 1：図鑑や写真を見せることで、どんな虫を作ろうかイメージが膨らむようにする。 T 2：子どもの意見（つぶやき）を拾うようにする。

3. 材料をもらう。	Ｔ１・Ｔ２：材料を配る。
4. 芯に作りたい虫の色の折り紙を巻く。	Ｔ１・Ｔ２：巻きづらい子には援助する。
5. 色画用紙を使い、虫の手や足などを表現していく。	Ｔ１・Ｔ２：うまくはさみが使えない子どもには援助する。またのりの量も調整できるように声がけをする。 Ｔ１・Ｔ２：表現したい虫の足りないものはないか声掛けしながら仕上げていけるようにする。
6. 鑑賞する。	Ｔ１・Ｔ２：完成した作品を飾る。 Ｔ１：作品を鑑賞することにより、友だちの発想も認めていけるようにする。
7. 片付けをする。	Ｔ１・Ｔ２：みんなで片付けをするように声をかける。
8. まとめ	Ｔ１：本時のまとめをして次回に期待を持てるようにする。

８．評　価

子どもたちが表現したいと思ったものが出来上がったか。

＊本時の子どもたちの様子を指導者間で確認し、評価していく。

英語あそび指導案

9：15 ～ 10：00

指導者　西　谷　　彩
中　村　沙　織

1．年　齢：4 歳児

2．あそび設定の視点：個性や興味・関心、能力に応じた英語指導

3．主　題：「いろいろな動物の名前」～英語でなんて言うのかな？～

4．主題について

今学期は年中の園児は動物の名前を主題として扱っている。英語あそびでは聞くことを大切にしている。英語あそびは始まって 2 か月が経過したところだ。初めての英語の音に触れるこの段階ではたくさんの英語の音に慣れて欲しいので、基本英語のみで行なっていく。本時では歌を通して、英語の表現・リズムを身につけさせていき、アクティビティを通して語彙に親しませていきたい。

5．園児の様子

上でも述べたが、英語あそびは子どもたちにとっては始まって 2 か月が経過したところである。4 月はほぼ英語で展開されていく英語あそびに対してどのように活動していったら良いのか戸惑う子どもも多くいたが、英語での指示や活動に慣れてきている。少しずつ英語の歌や簡単なアクティビティを通して楽しむことができている。

6．本時のねらい

- 英語の音に慣れていく。
- 歌やチャンツを通して英語のフレーズに慣れていく。
- ゲームやアクティビティを通して英語の語彙に親しむ。

7．本時の指導過程

教材の内容及び園児の活動	指導上の留意点
～準備：椅子を出し、座る～	○様々な活動で使えるよう、環境を整える。
1. あいさつ	○これから英語あそびを始める意識を持たせるようにする。
2. Hello song • What's your name を歌う。 歌に合わせて“I'm fine thank you.”“My name is ～.”を言う。	T（指導者）1：一緒に歌う。全体で歌った後、子どもたちの様子をみて、一人で言えそうな子には言わせていく。 T 2：ピアノを弾き、子どもたちが歌いやすいようにしていく。

3. calling the roll 自分の名前が呼ばれたら“I'm here.”と言う。	○出席確認及び本日の健康状態把握として一人ひとりの子どもに呼びかける。
4. Sing a song • Rainbow song を歌い、色の名前を確認する。	T１：色のカードを使って、言葉と色が結びつきやすいようにする。 T２：子どもたちと一緒に歌う。
5. Reading book 動物の出てくる絵本の読み聞かせをする。	○子どもたちから英語で動物の名前のが出てきたら、褒めていく。
6. Animals name 動物の名前の確認をする。	T１：絵カードを使いながら楽しく確認をしていく。
7. Game & Activity 動物の名前を使った BINGO を行う。	○ルールを確認しておく。 T１：動物の名前を言った後、絵カードも示し、わからない子も絵と名前を一致させられるようにする。 T２：子どもたちの様子を見ながら、わかっていない子には援助をする。
8. 片づけ・終わりのあいさつ Goodbye song を歌う。	○本時の活動を振り返り、次回にも期待が持てるようにする。

8．評　価

• 色々な活動に興味を持ち、楽しく取り組めたか。
一人ひとりの取り組み姿勢や反応などを複数の指導者で確認しながら評価していく。

知能あそび指導案

9：15 ～ 10：00

指導者　大　嶋　比査子
伊　奈　恵　理

1．年　齢：5歳児

2．あそび設定の視点：図形構成力を育む指導

3．教材名：「漢字パズル」～街にあふれる漢字を作ろう～

4．本時刺激される知能因子：図形で体系を認知する（CFS）

5．本時のねらい

漢字のパズルピースを、形に着目して見本（漢字）の形と照合し、見本通りに完成させていくことにより、図形で体系を認知する能力を育てる。

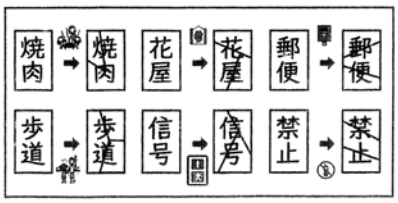
6．教材について

子どもたちの知的好奇心を刺激しながら、思考力を養う教材を考えるとき、興味を引く素材や内容が、意外と身近にあったりする。知能あそびでは図形的な教材の中に基本図形だけでなく、恐竜や魚、万国旗や家紋などの素材を扱っている。その取り組みから新しい興味や知識につながっていく。中でも『漢字』は興味の一つではないかと感じる場面がたくさんある。子どもたちに名前を書いてもらうと「漢字で書いてもいい？」という子や簡単な『漢字』など「知ってる！」と自信満々に笑顔でいっぱいになる。

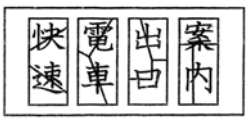
本時の取り組む「漢字パズル」は、そういった子どもたちの場面から作成に至った教材である。

駅から学園までの看板など改めて見てみると、たくさんの『漢字』があふれている。そこで街をテーマとしたパズルなら「見たことある！」と興味を持って取り組めるのではないだろうかと考えた。見本の『漢字』を見ながら、全体の形と線を正しく捉え、パズルピースを合わせて復元していくのである。今回は街の『漢字』という素材から2文字熟語、3文字熟語が3～4分割になっている。『漢字』を目にしたとき、「難しい？」と思う子どももいるであろう。そこで始めにグループで協力し、一緒に考える活動を通して「できそうだ！」という自信を持ってできるようにしたい。次に個々で進めるパズルに取り組むことになる。熟語パズルが中心となるが、『漢字』やパズルが得意な子どもたちに難易度を上げ、5つの似た『漢字』を集めたパズルも用意した。

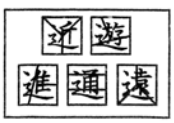
『漢字パズル1』



『漢字パズル2』



『漢字パズル3』



5歳児（1組）

どちらのパズルも４～５つの『漢字』のピースが一緒に入っているので、一つのピースがどの『漢字』の一部分かを見ながら合わせていくのである。完成させるとピースをはめ込む台紙が透明になっていて、持ち上げると、ピースの裏に写真や読み方の文字が見え、完成の確認と興味が持てるようになっている。子どもたちが次々と挑戦できるように、またつまずいたときに自分の力で完成できるように、指導に心掛けていきたい。そして「漢字パズル」の取り組みから、図形での思考力を育むだけでなく、『漢字』に対する興味が深まることに期待している。

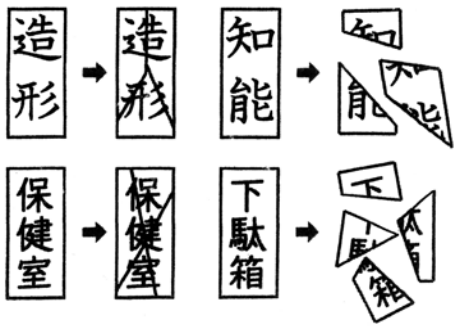
７．園児の様子

年長になって挑戦意欲も旺盛になり、子どもたちは毎回課題に興味を持って積極的に取り組んでいる。好奇心が旺盛で、今日は「どんなことをするのかな？」と楽しみにしている子どもが多い。年長初めての知能あそびの「スリーヒントクイズ」では１問々よく考え、当てられたことが嬉しく笑顔で終えていた。数の大小を比べっこするカードゲームでは、お友達と一緒に考える楽しさからとても盛り上がっていた。

このクラスの子どもたちはパズルが得意な子が多い。年中の頃、難しいパズルを最後まで諦めずに挑戦して、完成させた時パッと笑顔が広がって、嬉しそうに「できた！」と言って、達成感を味わっている瞬間をたくさん見ることができた。

今回子どもたちが取り組むパズルは、これまでの反応から意欲的に取り組んでくれることに期待している。時にはなかなか完成できず、くじけそうになってしまうことも予想される。そんな時は励ましながら、挑戦する気持ちと気づきを大切に、じっくり考え完成できるように声を掛け子どもたちが充実した時間を過ごせるように進めていきたい。

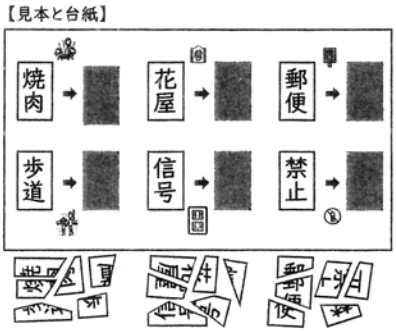
８．本時の指導過程

教材の内容及び学習活動	指導上の留意点
1. 始まりのあいさつをする。 2. 全員で集まってすわり、説明を聞いて、やり方を理解する。 【説明用パズル】  	○出席確認をして、本日の健康状態を把握する。 T（指導者）1：説明用の見本とパズルのピースを提示して、どのように組み合わせたらパズルが完成できるか考えさせる。 どの漢字のピースかを判断して、縦、横、斜めの線がつながっているか、全体の形が見本と同じかを確認させる。 T２：子どもたちがやり方を理解しているか、一人ひとりの反応と様子を見る。

3. それぞれのテーブルにつき、グループでパズルに取り組む。

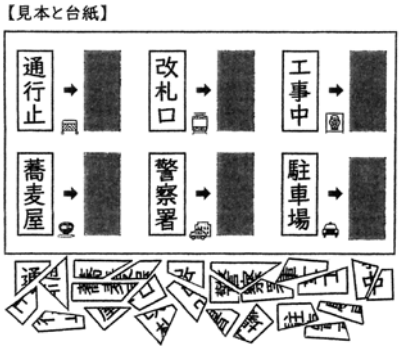
【漢字パズル 1】：2 題

①



• グループで協力しながら、パズルを完成させていく。できあがったら確認してもらい 2 題目に取り組む。

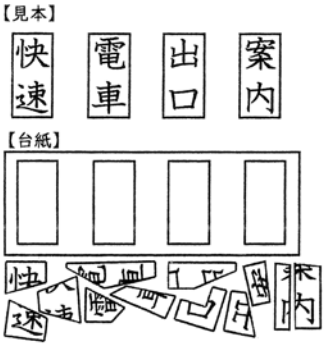
②



• ボードとパズルピースを片付ける。

4. パズル 1 を終えたグループから、椅子を出して個々のパズルに取り組む。

【漢字パズル 2】：5 題



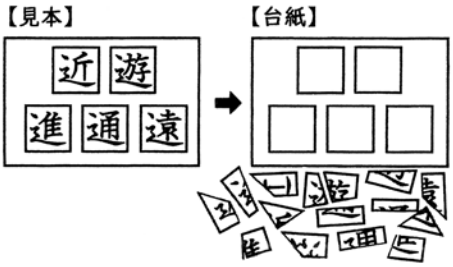
T 2：4 人のグループになって、それぞれのテーブルにつくように指示をする。

T 1：子どもたちの移動に気を配り、それぞれのテーブルにピースとはめ込むボードを配る。

T 1・T 2：全体の形（漢字）、線のつながり、ピースの切り口などよく見て、組み合わせているか確認していく。
グループで協力して取り組めるように留意する。

T 1・T 2：パズルを終えたグループから、ボードとピースの片付けを指示する。
椅子を出すことで、移動が速やかにできるように留意する。

T 1・T 2：個々にパズル 2 のピース（3 ～ 4 分割された 4 つの熟語）、見本、ピースをはめ込む台紙を持ってくることを指示する。
作業がスムーズに行えるように留意する。

• ピース、見本、ピースをはめ込む台紙を持ってきて、ピース（3～4分割された4つの熟語）を袋から出して取り組む。 • 見本を見ながら、パズルを完成させる。完成できたら、台紙を持ち上げ、裏面にある写真が完成できているか確認をする。 • できたら確認してもらい、次に進めていく。	T1・T2：パズル1の取り組みが活かされているか、正しくパズルが完成できているかを確認しながら適宜指導、助言をしていく。
【漢字パズル 3】：5題  	T1・T2：個々にパズル2のピース（3分割された5つの漢字）、見本、ピースをはめ込む台紙を持ってくることを指示する。 作業がスムーズに行えるように留意する。
• パズルピース、見本、ピースをはめ込む台紙を持ってきて、ピース（3分割された5つの漢字）を袋から出して取り組む。 • 見本を見ながら、パズルを完成させる。完成できたら、台紙を持ち上げ、裏面にある読み方が完成できているか確認をする。 • できたら確認してもらい、次に進めていく。	T1・T2：パズル2よりも、難易度が上がっているので、正しくパズルが完成できているかを確認しながら、適宜指導、助言をあたえるが、できるだけ自分の力でやり遂げようとする姿勢を大事にしていく。
5. 片付け • ピースを袋に入れて、はめ込み台紙と一緒に、所定の場所に片付ける。	T1・T2：片付けの指示をし、速やかに行えるように対応する。
○終わりのあいさつをする。	T1：本時のまとめをして、終わりのあいさつをする。

9．評　価

授業後、本時を振り返り、子どもたち一人ひとりの課題への取り組みや反応、理解度など指導者間で確認をし、本時のねらいが達成できたかどうかをまとめて、今後の実践に活かしていく。

リトミックあそび指導案

9：15 ～ 10：00

指導者　神　山　祐　希
飯　濵　久美子

1．年　齢：5歳児

2．あそび設定の視点：想像力を豊かにする表現活動

3．主　題：「拍子の聞き分けできるな？」～忍者屋敷からの挑戦状～

4．主題について

園生活の中で子どもたちは、ヒーローやお姫様、お母さんやお姉さんになりきってごっこあそびを楽しんでいる。忍者になることも大好きで、折り紙で手裏剣、新聞紙で剣を作ったりして、イメージを膨らませながら遊ぶ姿も見られている。またリトミックあそびでは音のニュアンスや拍子の聞き分け等、じっくりと音を聴いて反応することも上手になってきた。本時はイメージの世界を楽しみながら、音への反応力も高めていきたい。

5．園児の様子

年長になり2か月が経ち、新しい環境にも慣れてきた子どもたち。自由あそびでは友だちを誘い合って活発に遊んでいる。年長として、お当番活動なども始まり、はりきって毎日を過ごしている。カリキュラムあそびでは毎日のあそびを楽しみにしていて、リトミックあそびも毎回喜んで意欲的に参加する姿が見られている。年少・年中での経験を基に更に活動の内容を深めているところである。

6．本時のねらい

イメージの世界の中で、即時反応・音の高低・強弱・音のニュアンスの聞き分け・2，3，4拍子の聞き分けを経験しながら、表現力を伸ばしていく。

7．本時の指導過程

教材の内容及び園児の活動	指導上の留意点
～準備：はだし・円になる～	○空間を広く使えるよう、環境を整える。 T（指導者）1：全体を通してピアノをベースに活動を進めていく。 T 2：子どもたちと一緒に活動し、様子を見ながら適宜援助していく。
1. リトミックあそびのうた・あいさつ	○これからリトミックあそびを始める意識を持たせるようにする。
2. 模唱（お返事ハイ） 『○○くん』→『はあい』	○出席確認及び本日の健康状態把握として、一人ひとりの子どもに呼びかけ、きちんと音に合わせて答えられるよう配慮する。

3. ウォーミングアップ 「♩」……歩く　「𝅗𝅥」……ゆっくり歩く 「♪」……かけ足 〈合図〉 ☆高い音……頭の上で手をたたく ☆低い音……しゃがんで床をたたく ☆高低同時 ……片手を上にもう片手は床をたたく ☆リズム“♪♩♪♩♩♩𝅗𝅥𝅝” ……アクセントで手をたたく ☆呼びかけ“♫♫𝅗𝅥” ……友だちを見つけて握手する	Ｔ１：即時反応の合図を明確に子どもたちにわかり易いように伝える。 Ｔ１：子どもたちの動きを見て、合図のタイミングを工夫する。 Ｔ２：なかなか取り組めない子どもがいたら、励ましたり、一緒に行う。 Ｔ２：反応の速い子どもを認めていく。 Ｔ１：速さを変えていき、タイミングをようにする。 ○友だちは何人でもよいという指示をする。
4. 模唱♪朝は何を食べたの？	Ｔ１：子どもたちの発表意欲を尊重していく。
5. 自由表現 「忍者屋敷からの挑戦状」 ～忍者屋敷から挑戦状が届きました。 いろいろな修行に挑戦してみよう！～ 出発！ ～乗り物に乗って忍者屋敷に出発だ～	Ｔ１：子どもたちの興味をひけるようにお話しする。 Ｔ１：子どもたちの意見を取り入れる。 Ｔ２：表現が引き出せるように援助していく。
忍者屋敷に到着！ 【リズム打ち】 ①「忍者屋敷の扉をあけよ」 扉を開くおまじないの言葉でリズム打ち	Ｔ１：子どもたちの意見を取り入れながら、わかりやすいリズムを考えていく。
②「忍者歩きを習得せよ」 【リズムの聞き分け】 ・ぬきあし　さしあし　しのびあし（♪） ・壁歩き（♩） ・頭を低く（𝅗𝅥）	Ｔ１：それぞれの歩き方の聞き分けをしやすいように弾く。 Ｔ２：子どもたちのイメージが広がるよう声がけしながら一緒に歩く。
③「落とし穴・壁に注意せよ」 【即時反応】 ・♪→低い音（落とし穴）　ジャンプ ・♩→トリル（壁がひっくり返る）	Ｔ１：合図の動きを子どもたちと確認する。 Ｔ２：子どもたちがぶつかったりしないよう留意する。

④「矢を止めよ」 【高低の聞き分け】 ・高音……上の矢 ・低音……下の矢	Ｔ１：高低が聞きとりやすいようにする。 Ｔ２：子どもたちの忍者へのイメージが膨らむように配慮する。
⑤「手裏剣をよけよ」 【拍子の聞き分け】 2，3，4拍子の1拍目に飛んでくる手裏剣をよける。	Ｔ１：1拍目をわかりやすく弾く。 Ｔ２：しっかりよけられているか子どもたちと一緒に確認する。
⑥「注意して歩け」 ・短調……暗い廊下 ・長調……広い廊下	Ｔ１：ニュアンスが伝わるようにする。 Ｔ２：子どもたちと忍者になりきってイメージを膨らませていかれるようにする。
⑦「一人前の忍者になって…」 忍者屋敷からのプレゼントをみつけ…	Ｔ１：忍者修行が終わった達成感をかんじられるよう、声かけする。 Ｔ２：プレゼントの手裏剣を配る。
⑧「元の世界へ」	Ｔ１：子どもたちの意見を取り入れながら忍者から戻る方法を考える。
6. 終わりのあいさつ	○本時の活動を振り返り、次回にも期待が持てるようにする。

8．評　価

活動後、本時の内容を振り返り、子どもたち一人ひとりの取り組みの様子を指導者間で確認し、本時のねらいが達成できたかどうかまとめ、次回へとつなげる。

小 学 校 の 部

知能訓練指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　富　永　理香子
長谷川　和　暉

1．学　年：1年生（1組）

男子 18 名　女子 11 名　計 29 名　聖徳式（個人）平均 IQ　144.4

2．授業設定の視点：見通し力の開発と育成を目指した指導

3．教　材：『変形本双六』～すべての持ち駒を早くゴールするには？～

4．本時刺激される知能因子：記号で見通しを拡散思考する（DSI）

5．本時のねらい

ゲームのルールを理解し、サイコロを振って出た目数を効率よく生かした駒の進め方を考えながら双六ゲームを行うことにより、記号で見通しを拡散思考する力を育てる。

6．教材について

『雙六』と呼ばれたボードゲームは、飛鳥時代に日本に伝わり、江戸時代中期まで庶民から上流階級まで幅広く人気を集めていた。何と正倉院には聖武天皇のご愛用品として伝わる5面の雙六盤が大切に保存されているとも聞く。トランプカードもそうだが、駆け引きの要素の強いゲームは大人の遊びとして流行し、時として禁止される。現在日本で『すごろく』と言えば、お正月に目にする『絵双六』であるが、昔大流行した『雙六』は『盤双六』といって、ボードゲームの中では世界一遊ばれているバックギャモンに近いものだったらしい。この駆け引き要素のある双六を小学1年生でも楽しませたいと、四十数年もの間、本校の児童に実施し、あれこれ改良され修正されてきた教材が「変形本双六」である。

サイコロの出た目に左右される点では運の要素もあるが、突きつけられた局面を、どう選択してすべての持ち駒をゴールさせるかを考えることは、自らの力で考えうる選択肢を上げて、先のことまで見通した上で選んでいかなければならず、見通す力を求められる。このように自分で切り開いて進んでいくことを好きになると、“手”を考えるゲームが好きになっていく。

しかし、そうはいっても小学一年生なので、絵双六の延長線上との微妙なさじ加減が必要となってくる。そのあたりを整えて、うまく子どもたちの力を引き出すことができるかが、大事なところだと考えている。

初めは、サイコロを振って出た目の数だけ正しく駒を動かす。

慣れてきたら、サイコロの目数をよく見て、どの駒が動かせるか、『ヒット』（相手の駒が一つあるところにちょうど止まる）ができるか、『ブロック』（自分の駒が一つ以上あるところにちょうど止まる）ができるかを見落とさないようにして、自分にとっての最良を選んでいく。

さらに、『安全地帯』（示されている色の駒しか止まれない）や駒の数が増えることで、一手先、

二手先を考えて、自分の駒を動かしていくことが、勝つためには必要になってくる。

このように、ゲーム盤やルールを少しずつ変更して取り組ませることにより、サイコロを振ったそのときだけでなく、先も考える癖をつけていくことになる。

また、こうした新しいゲームに取り組む時、何回戦か繰り返す中で気づいていくことが多い。ゲーム内容やルールの理解を早めて、1回でも多くサイコロを振って駒を進められるように、時間配分にも留意して指導にあたりたいと思う。

７．クラスの実態と指導の観点

本クラスの児童のＩＱとＦＱ（知能因子指数）の平均は下記の通りである。

	IQ	図形	記号	概念	認知	記憶	拡散思考	集中思考	評価
平均	144.4	152.1	142.4	139.0	140.1	155.3	137.7	139.9	149.1

「はじめての知能訓練」の授業では、29人全員が手を上げて答えてくれた。明るく、元気のいいクラスである。また、「何だろう」と思ったことにはよく注目して、全力で理解しようとするところが見られる。“図形”“記憶”“評価”に高い数値を持つクラスなので、ゲームの説明もよく聴き、比較的スムーズに理解して始められると予想される。

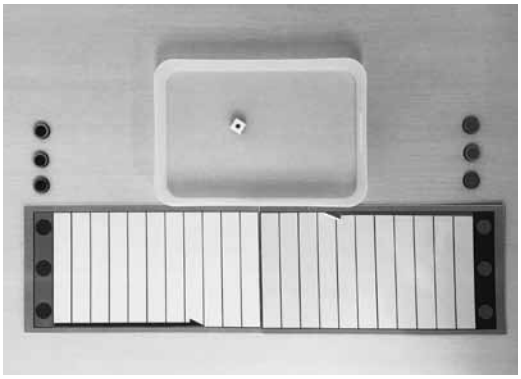
自分の用紙に書き込んでビンゴを作るゲームは何度か楽しんだが、対戦形式のゲームは、本教材が初めてとなる。新しいものへの好奇心も旺盛なクラスであるので、今回の教材に楽しく取り組んでくれると期待している。

また、本校の知能訓練の二人指導制の利点を活かし、個々の実態をしっかりと把握し、一人ひとりが楽しみながら、ねらいに迫れるよう授業を進めていきたいと考えている。

８．本時の指導過程

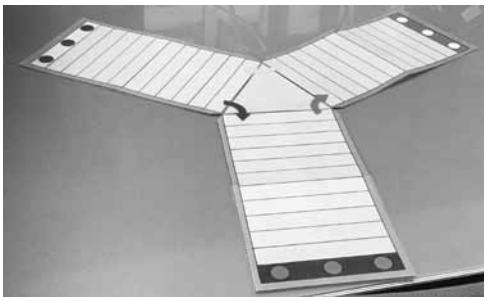
教材の内容及び学習活動	指導上の留意点等
1. 本時の活動内容を知る。 「変形本双六」 ◇用意するもの（二人１組） • ゲーム盤（「変形本双六Ｉ」） • 駒　赤青各３個ずつ　計６個 • サイコロ　１個 • トレー （サイコロを中で振るために使用） 各自に記録用紙 ◇ルールと進め方 (1) 二人で１枚のゲーム盤を使用する。	1. Ｔ（指導者）1：大判提示とプロジェクタを使用した提示を併用して、ゲームの目的、用意するもの、進め方、ルールをわかりやすく説明する。 • スタート時に駒を並べる場所 • ヒット（相手をスタートにヒットする） • ブロック（二つで相手をブロックする） • ぴったりで上がり Ｔ２：机間巡視。 一斉の説明に耳を傾けられているか。

(2) ジャンケンをして、勝った方が赤(先手)、負けた方が青となる。駒をそれぞれスタートに置く。赤は青のゴールエリア、青は赤のゴールエリアに駒を並べる。
(3) 赤から順にサイコロを振り、出た目の数だけ駒を進める。
①相手の駒が一つある所にちょうどの数で止まったら相手の駒をスタートにもどすことができる。通り越すときには、そのまま通り越す。(ヒット)
②相手の駒が２個以上ある所に止まったら、スタートに戻される。(ブロック)
③動かせる駒がある時には、パスはできない。
④ゴールはちょうどの数でしか上がれない。ちょうどで上がれない時は、そのままで次の手番を待つ。
(4) 先に三つの駒をすべてゴールさせた方が勝ち。
(5) ゴールさせた駒の数を記録用紙に書く。



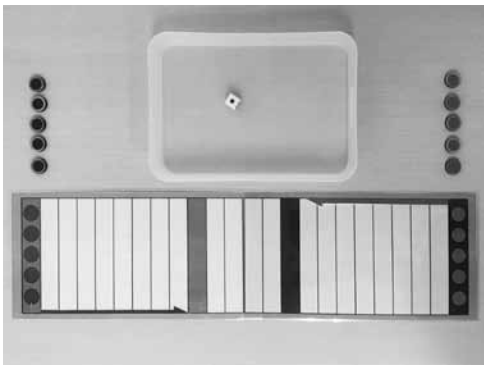
変形本双六Ⅰ

2.「変形本双六Ⅰ」に取り組む。
※クラスの人数が奇数の時には、１チームのみ３人対戦用の盤を使用して行う。



変形本双六Ⅰ　三人対戦用

2. Ｔ２：対戦相手を知らせ、順に手際よく用具を配布する。
Ｔ１：机間巡視。
用具が行き渡っているかどうか。興味を持って取り組もうとしているか。
※３人対戦が生じた場合には、全体に開始の合図を出した後、補足説明をしてから取り組ませる。【Ｔ1】
Ｔ２：机間巡視。
進め方やルールの理解ができているか。
Ｔ１・Ｔ２：ともに児童の様子を観察し、必要に応じて追加説明をする。
Ｔ１：時間を区切って終了させ、各自の記録用紙にゴールした駒の数を記入させる。

3.「変形本双六Ⅱ」の説明を聴き、Ⅰとの違いを理解する。 ◇「変形本双六Ⅰ」との違い ①駒の数が５個に増える。 ②赤青それぞれ、途中にある相手の色のマスには止まれない。（安全地帯） ※盤はⅠの裏側に印刷されている。	3. Ｔ１：Ⅰからの変更点をわかりやすく説明する。 Ｔ２：机間巡視。 児童の様子を観察し、必要に応じて追加説明をする。
4.「変形本双六Ⅱ」に取り組む。  **変形本双六Ⅱ**	4. Ｔ１・Ｔ２：机間巡視。 • 行き当たりばったりに駒を動かすのではなく、サイコロの出た目と盤のマス数をよく見て考えられているか。 • ルールの理解や駒の進め方の工夫はできているか。
5. 片づけ・まとめ ①速やかに用具を片づける。 ②記録用紙に対戦結果をまとめる。	5. Ｔ１・Ｔ２：終わりの合図をして、用具の回収をする。 Ｔ１：児童に感想を聞き、本時のねらいを達成できたかどうかの判断材料とする。

９．評　価

本時のねらいが達成できたかどうか分析し、児童一人ひとりの課題への取り組みや反応（意欲・集中力・理解度）について、指導者二人で実践記録にまとめて今後に活かす。

音楽科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　**三　品　亜　美**

1．学　年：1年生（2組）

男子18名　女子11名　計29名　聖徳式（個人）平均IQ　145

2．授業設定の視点：イメージ力の育成を目指した指導

3．題　材：文部省唱歌『うみ』～3拍子を感じながら海をイメージして歌おう～

4．題材について

林柳波作詞、井上武士作曲の『うみ』は、1941年（昭和16年）に発行された「ウタノホン（上）」にて発表された。大正時代に作られた文部省唱歌が多い中、この『うみ』は他と比較して歴史の浅い部類に入る。シンプルに見えてよく練られた旋律と、唱歌には珍しい3拍子が特徴である。

児童がこれまでに触れてきたものは、おそらく幼稚園・保育園の頃も含めると「元気で」「明るくて」「テンポの速い」曲がほとんどであったと思われる。その理由は、子どもの出せる声域に合わせていたり、手遊びを通した触れ合いを重視していたりなど、心身の発達段階に則っているからである。しかし今後学習する曲は、決してその類ばかりでない。「穏やかで」「落ち着いていて」「テンポの遅い」曲は多数存在し、この『うみ』はそういったものに本格的に触れる初めての曲と言えるだろう。その初めてに相応しい、分かりやすくて歌いやすい曲である。

音楽の学習においての表現方法はさまざまであるが、今回は「曲に合う声の出し方を考えて歌う」「ゆったりとした海の様子を動きで表す」、この二つに焦点を絞る。どのように曲の表す風景や旋律の動きを捉えるか。どうやって抽象的なことを具体的に表現するか。聖徳らしい想像豊かな言動が期待される。また、児童が自由にのびのびと自分自身の心を開けるよう、留意しながら指導していく。

5．クラスの実態

今年入学してきた本クラスの児童と4月に初めて出会い、この2か月半楽しく授業を行なってきた。1年生の音楽の授業は週に1回､2コマ連続だが､4月時点で「80分間集中できる姿」に驚いた。6～7歳児であれば、1時間以上も着座した状態で授業を乗り切るのは、ましてや入学してきたばかりの1学期では厳しいものがある。しかしこのクラスの児童は長時間授業の大変さや辛さがあまりないように見られ、「あれ？もう授業終わりなの？」と漏らすこともしばしば。その高い集中力は彼らの何よりの強みである。また「多数の児童が挙手や発言に積極的」「子どもらしい素直で伸びやかな歌声」も、はやぶさ組の特徴と言える。

この2か月半で、学園歌・童謡・歌集に載っている曲などの歌唱、わらべうた・リトミックなどの身体表現、カスタネット・タンバリンなどの小物打楽器の演奏を行なってきた。今回扱う文部省唱歌『うみ』を通して、各々の考えと思いが歌や動きで表現できるようにし、今後の幅広い歌唱活動に繋げていきたいと考えている。

1年生（2組）

本クラスのIQ（知能指数）とFQ（知能因子指数）は下記の通りである。

	IQ	図形	記号	概念	認知	記憶	拡散思考	集中思考	評価
平均	145	154	139	144	138	155	142	146	147

この題材で求められるのは主に「拡散思考」である。それ以外にも楽譜（＝記号）を見たり、歌詞（＝概念）に着目したりと、因子の幅広い刺激が考えられる。

６．本時の目標

『うみ』の持つ特徴を捉え、歌唱と動きで表現する。

７．本時の指導過程

指導過程	学習内容	指導の重点および留意点
導　入 （常時活動）	1. あいさつをする。 2. ウォーミングアップを行なう。（体操・発声・聴音・リズム） 3. 今月のうた・学期のうたの歌唱をする。	○毎授業の積み重ねから少しずつ発展させた内容を行なう。
展　開	1.「夏の音当てクイズ」を行ない、その中の「波の音」に着目し、海の写真を見ながら、各々の経験を共有する。 2.『うみ』を聴き、ピアノで音取りする。 3.『うみ』ではどんな海の様子が描かれているか、そしてどんな歌い方が相応しいかを考える。 4. 歌詞の内容と３拍子の身体表現を繋げ、曲の風景をより深く理解する。	○児童の意識と気持ちを「夏」「海」に持っていけるよう留意する。 ○４小節ずつに区切って音取りをする。 ○写真を見たり、ホワイトボードに描いたり、布を使ったりしながら、イメージを膨らませる。 ○曲に合ったなめらかな動きをしている児童がいれば、そこから派生して動きを共有する。
ま と め	1. 授業で出された歌い方の工夫を意識しながら、最後に起立して歌う。 2. 次回は布を使い、グループで身体表現をすることを予告する。 3. あいさつをする。	○仕上げの気持ちで、周囲の歌声を意識しながら歌う。

国語科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　**渡　辺　泰　介**

1．学　年：2年生（1組）

男子19名　女子12名　計31名　聖徳式（個人）平均IQ　143.9

2．授業設定の視点：興味・関心に応じた学習指導

3．教　材：『なぞなぞ詩を作ろう』

4．目　標：なぞなぞの仕組みを使って詩を作る

5．教材設定の理由

(1) 教材観・指導観

本校では「なぞなぞ」を思考の教材として2年生で扱う。なぞなぞは子どもたちにとって身近な言葉遊びの一つであるが、その歴史は古く、平安中期の『枕草子』には、左右に分かれて謎を出す「なぞなぞあはせ」という遊戯があったことが残されている。なぞなぞが言葉遊びとして成り立つためには、普通に知識を問うクイズとは違い、答えにとんちや洒落、または韻を踏むなどといった工夫が要求される。クラス活動ではなく国語の単元としてなぞなぞを扱うからには、ただ楽しむだけでなく、なぞなぞの仕組みに気づいていくことが肝要となる。そしてなぞなぞとクイズの違いを理解し、次には自分でなぞなぞを作ってみることにつなげていきたい。最初はおそらくクイズとなぞなぞが混同して出てくるものと思われるが、それを整理し、違いを明確にしていく過程でとんちや洒落といった言葉遊びに触れ、その仕組みや面白さを体感してほしいと考える。

さらに今回は一歩進んで、なぞなぞ詩に取り組ませたい。なぞなぞが詩になることを知り、学んできたとんちや洒落、擬人化などを使いながら詩を作ることで、結果としてその仕組みの一つである「比喩」について知ることにつなげていきたい。ここでは、詩人の谷川俊太郎氏が『遊びの詩』（筑摩書房 1981年）の中でなぞなぞについて書いている部分を引用したい。

> 『形はどうあれ、なぞなぞとかことわざはことばの働きとして、詩と兄弟みたいなものなんです。連想とかたとえとか同音異義が、なぞを解くかぎになっている点ね。なぞなぞは世界中にありますね。なぞなぞをもっていない言語なんてないんじゃないかしら。』(p.140)

谷川氏の言葉にあるように「詩となぞなぞは兄弟」だとすれば、なぞなぞの発展としてなぞなぞ詩に取り組むことは自然な流れであり、意味があると考える。なぞなぞが一方向の視点だとすれば、詩にすることで多方面からアプローチしていくことができるのではないだろうか。子どもたちから出てくるものが、果たして「詩」と言えるかどうかは別問題として、その作品にそれぞれの子のどのような工夫が見られるかに期待したい。

(2) 児童観

入学した昨年度からの持ち上がりのクラスである。挙手や発言の多さには個人差があるものの、どの子も授業に対しては前向きである。また、このクラスでは1年生の時から素読読本とは別に教

師が選んだ言葉遊びや詩の音読を積極的に行なってきた。そういう意味では、詩や言葉遊びに関する感覚は、ここまでである程度磨かれていると見ることもできる。

さらに、昨年度末から「書く」ことに意識が向いてきた子が多く、作文以外にも自分の「創作物語」に主体的に取り組んでいた。

このクラスに限らず本校の児童は総じてクイズやなぞなぞが好きであり、この単元についての子どもたちの期待も大きいと言える。友達の発言や作品に刺激され、さらに面白いものが出てくるように促していきたい。

【知能構造のプロフィール――クラス平均――】

	IQ	図形	記号	概念	認知	記憶	拡散思考	集中思考	評価
平均	143.9	151.4	137.5	143.0	136.6	150.8	143.4	147.6	141.1

6．指導計画

○なぞなぞを分類する。…… 1・2 校時
○なぞなぞを作り、クラスで評価し合う。…… 3・4 校時
○なぞなぞ詩を作る。…… 5 校時
○なぞなぞ詩を発表し合う。…… 6 校時（本時）

7．本時の目標

なぞなぞの仕組みを使って作った詩を発表し、評価する。

8．本時の指導過程

ね ら い	学習活動	指導の重点および留意点
	• 授業開始の挨拶をする。 • 素読読本第弐輯を音読する。	• 授業の構えをつくる。
①なぞなぞの復習	○既習のなぞなぞの仕組みを分類する。	○分類する理由がしっかりと理解できているか。（言葉、イメージなど）
②詩人のなぞなぞ詩を紹介する。	○題名をかくしたなぞなぞ詩を読み合いながら、題名を想像し、詩の中にある、なぞなぞとして成立している工夫を確認する。	○比喩や擬人化などに着目できるか。
③作ったなぞなぞ詩を発表し評価する。	○作った児童に発表させ、その題名を考えさせる。それぞれの作品の工夫している点を確認する。 • 授業終了の挨拶をする。	○なぞなぞの仕組みとして比喩や擬人法などがうまくつかえているか。

9．評　価

2 年生が、なぞなぞの仕組みを理解しながら工夫した詩が作れるか。

知能訓練指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　地　挽　裕　子
淺　利　絵　海

1．学　年：2年生（2組）

男子19名　女子12名　計31名　聖徳式（個人）平均IQ　144.7

2．授業設定の視点：パズルを通して推理力を育てる指導

3．教　材：『線路図の完成』～見通しを立てて考えよう～

4．本時刺激される知能因子：図形で見通しを集中思考する（NFI）

5．本時のねらい

いくつかに切り離されたカードを使って、線の特徴から全体のつながりを見通し、道や線路図を完成することにより、図形で見通しを集中思考する力を育てる。

6．教材について

子どもに人気な玩具の一つに“プラレール（タカラトミー社）”がある。色々な特徴の線路を工夫してレイアウトを考えるのはとても楽しいものである。レールにはまっすぐなものと曲線のものもあるが、何も考えずにただつなげていったら線路が行き止まりで電車が脱線してしまう。電車が止まることなく元の場所に戻って走り続けられるレイアウトにするには、先を見通し、その場所にどのレールが一番適しているかを考える（図形の判断力）ことが必要になる。本時に取り組む『線路図の完成』はその線路つなぎをパズルにした形に近い。

本時の取り組む『線路図の完成』は、ひとまとまりの道（線）を表した図（道）を4～20のマス目で切断したカードを使って元通りの道（線）が完成するようにカードを並べていく課題である。台紙の上に1枚から6枚カードの場所が指定されているので、児童はそれを手がかりにしてカードをつなげて元通りの道（線）になる様にカードをつなげていく。すべての道がつながるようにするには、いい加減にカードを並べてもつながらないので、児童は自分のカードの道（線）の太さや本数などの特徴も見ながら、どのカードをどのような向きでつなげていくか見通しを立てながら考えていかなければならない。はじめは2×2の4マスから取り組むのでマス目も線の種類も少なくカードの色も手掛かりになるので見通しが立てやすいかもしれないが、段々とマス目の数も増えて道も複雑になり、カードの色も1色になるので、すんなりと見通しを立てて推理するのは困難なこともあるかも知れない。二人指導制を活かして児童たちの様子を観察し、思考が停滞している場合には助言を工夫して最後までやる気をもって取り組んで欲しい。

児童たちに人気のあるパズルという形式を盛り込んだこのパズルには、皆が興味を持って取り組んでくれることを期待している。問題を正確に捉えてパズルを構成していくためにはピースの向きや特徴を試行錯誤しながら考えていく柔軟性や推理力が必要になってくる。どの児童も個々のペー

スで時間一杯集中して取り組み持っている力を存分に発揮し、推理することの楽しさを十分に味わって欲しいと考えている。

7．クラスの実態と指導の観点

このクラスは昨年に引き続き担当しており、毎時間どんなことをするのか興味を持って臨み、明るく活発なクラスである。教材に対して前向きな姿勢は、今後も崩さずに行ってほしいと思う。本時では教材の進め方や言葉がけを工夫しながら、粘り強く集中して取り組む姿勢を育てていきたいと思っている。

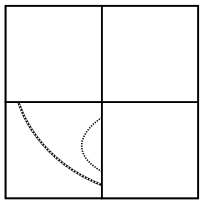
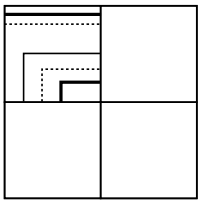
個別に進めていく本時の『線路図の完成』では、自力で解決の糸口を見つけ出していくことを目標に、試行錯誤して考えることの楽しさを実感させたい。そのためにも、一斉の説明は簡潔に分かり易く行い全員に十分理解させた上で、それぞれがスムーズに個別の活動に入れるように留意する。

《知能構造（クラス平均）のプロフィール》

	IQ	図形	記号	概念	認知	記憶	拡散思考	集中思考	評価
平均	144.7	151.1	141.1	142.0	136.7	148.7	140.3	152.9	145.1

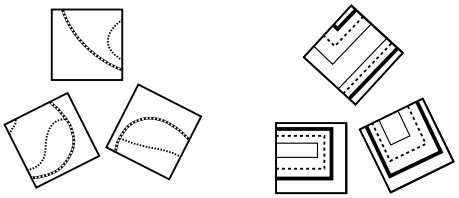
本時に刺激する「図形」と「集中思考」の知能因子指数（FQ）は、他のFQと較べると若干高い指数を示している。集中思考の素材としてパズル形式を用いる中で、更に楽しんで取り組み、推理する力を伸ばしていきたいと考えている。

8．本時の指導過程

教材の内容及び学習活動	指導上の留意点
1. 指導者の話を聞き、本時の内容を理解する。 • 白板の提示を見て、「線路図の完成」の方法を理解する。	• ピースの内容と台紙の書いてある提示を見せながら、教材の内容と進め方を説明する。 T（指導者）1：実物と例題を提示し、具体的に進め方のポイントを説明する。 T 2：机間巡視をしながら、児童が説明に集中できているか確認する。また、追加説明した方が良い点などを押さえる。
①台紙 台紙に色が指定されているので、色ごとに問題を完成させていく。 • 2×2マス　2題　　• 2×3マス　4題 • 3×3マス　6題 ※台紙は両面で違う問題になっている。	《台紙例》  1. あか色  2. きみどり色

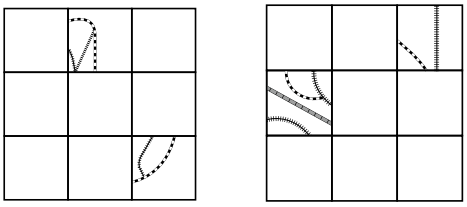
②ピース
それぞれ２題ずつ、色違いのピースが１袋に入っている。（一人分ずつ、箱に入って用意してある。）
③進度表
できたら指導者に確認してもらい、進度表にシールを貼って次の問題を進める。

• 《ピース例》



④完成見本
・必要に応じて配布する。

《完成見本例》



11. みかん色　　12. みかん色

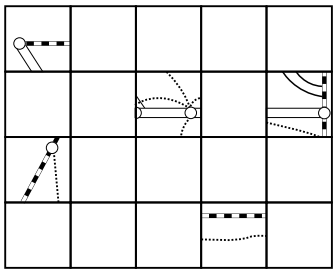
2. 個別の活動を行う。
(1) 台紙の問題を取り組む。
• 台紙、ピースを使って、それぞれのペースで課題に取り組む。

2. 教材を配布する。
Ｔ１・Ｔ２：進度表を配布し、記名を確認する。
Ｔ１・Ｔ２：台紙とピースを配布する。
Ｔ１・Ｔ２：児童の取り組みの様子を見て必要に応じて確認または助言をする。
※個々の様子を見て、滞っている場合には段階に応じた助言をする。
①Ｔ１・Ｔ２：プリントの台紙とピースを配布する。
②Ｔ１・Ｔ２：できるだけ自分の力で完成できるように助言を工夫する。

(2) ３×３マスのカード形式の課題が全て終了した児童から、台紙とピースの入った箱を片付け、切り貼り形式で使用するプリント台紙と選択肢を受け取り、それぞれ進める。
※選択肢を空欄部分に全て載せた段階で、指導者の確認を受け、その後糊で貼り付ける。

Ｔ１・Ｔ２：児童の取り組みの様子によって、次の課題に進む頃合いを図り、スムーズに作業を切り替えられるようにする。

• ３×３マスのカード形式が終了した児童には、個別に３×４マスの切り貼り形式に進めさせる。

	※糊で貼る前に指導者が確認をする。 ※時間的に貼る作業が厳しい場合は、プリント台紙に乗せた段階で完成とするなど、柔軟に対応する。 《プリント例》  Ｔ１・Ｔ２：プリントの台紙とピースを配布する。 Ｔ１・Ｔ２：できるだけ自分の力で完成できるように助言を工夫する。 Ｔ１・Ｔ２：どうしても行き詰まっている子には、ピースの組み合わせ方や台紙につながるピースに着目していくように促していく。
3. 使用した用具を片付ける。	3. 片付けをする。 • 終わりの合図をし、用具の回収をする。
4. 終わりの挨拶をする。	4. 終わりの挨拶をしっかりするように促す。

９．評　価

授業後、本時を振り返り、児童一人ひとりの課題への取り組み反応（意欲・集中力・難易度）について指導者同士で確認をし、本時のねらいが達成できたかどうかを実践記録にまとめて、今後の実践に活かす。

数学科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　齊　藤　　勇
太　田　伊都代

1．学　年：3年生（Aクラス）

男子20名　女子11名　計31名　聖徳式（個人）平均IQ　163.6

2．授業設定の視点：規則性を発見し、それを活用する力を育む指導

3．授業の題目：規則性の応用（階段の上り方～フィボナッチ数列～）

4．題目について

数学科カリキュラムの特色の一つとして、「数列」の単元を設定していることが挙げられる。テキスト等で簡単な数列については1年生から触れており、等差数列や等比数列など本格的には5年生で扱い、子ども達が自ら規則性を発見し公式化できるように指導している。

今回は規則性の応用として「フィボナッチ数列」について扱うことにした。フィボナッチ数列とは、$a_1 = 1$、$a_2 = 1$、$an = a_{n-1} + a_{n-2}$（a = 3, 4, ……）で定まる数列であり、すなわち *1, 1, 2, 3, 5 , 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144, 233, 377,* ……と表すことができる。各項のことをフィボナッチ数という。この数列には面白い特徴があり、ヒマワリの種は螺旋状に並んでいるが、その螺旋の数は右回りが55個・左回りが34個となっていることが多く、自然との関連もある不思議な数である。

本時は、そのフィボナッチ数列が表れる「階段の上り方」について扱う。「10段の階段を上るとき、1段上るか、2段上るか、2通りの方法を組み合わせて上ると、全部で何通りの上り方があるか。」という課題を提示する。答えは、フィボナッチ数列の第2項目からの数と一致する。

過去に、「紙の貼り方と画鋲の個数」や「ビリヤードの跳ね返り方」などを規則性の教材を作ってきたが、今回は「階段の上り方」を教材にした。このクラスは集中思考のFQが高いのでその特性を生かし、図などを頼りに粘り強く思考しながら規則性を発見し、最終的にはなぜその規則が成り立つのかまで迫っていってほしいと思う。

5．クラスの実態について

一斉授業では挙手が多く見られ、どの子どもも意欲に満ち溢れている。解法については、時々こちらが考えつかないような発想豊かな考え方を発表してくれることがあり、授業が盛り上がることが多い。また、友達の意見をしっかりと認めることができるので、温かい雰囲気の中で学習を進めている。

個別課題の時は課題にじっくりと取り組むことができているが、二人指導制を生かし毎回学習内容がしっかりと理解できているかを確認している。本時で扱うようなパズル的な課題には興味を示すことが予想されるので、柔軟な思考を生かして解法を導いてくれることに期待している。なお、本クラスのIQとFQの平均は以下の通りである。

3年生（Aクラス）

	IQ	図　形	記　号	概　念	認　知	記　憶	拡散思考	集中思考	評　価
平均	163.6	166.9	160.8	163.0	160.5	160.8	168.5	176.9	151.4

6．指導計画

規則性の応用…… 1 校時（本時）

7．本時のねらい

階段の階数を変化させた時、上り方が何通りあるかを考え、どのような規則性があるのかを発見することができる。また、なぜその規則が成り立つのかに気付くことができる。

8．本時の指導過程

<table>
<tr><th>ね ら い</th><th>学習活動</th><th>指導の重点及び留意点</th></tr>
<tr><td>1. 階段の写真を見て段数を数えさせる。

2. 提示した階段の図を見て、上り方のルールを理解させる。

3. 段数が4段になったとき、上り方が何回になるのかを考えさせ、求め方を発表させる。

4. 段数が5段になったとき、上り方が何回になるのかを考えさせる。
また、上り方の規則について気付いたことを発表させる。

5. 規則を用いて、10段の場合の上り方が何通りか求めさせる。
また、なぜその規則が成り立つのか考えさせる。</td><td>学校の1階から踊り場までの写真であることに気付き、側面に書いてある数から何段かを数える。
1段・2段・3段の階段の図を見ながら、順に上り方が何通りあるのかを求めていく。

4段なった場合が何通りになるのか予想した後、ワークシートを使いながら実際に解いていき、発表する。

図を用いたり、樹形図のようなものを描いたり、数を書きならべたりして5段の上り方を発見していく。
<table><tr><td>段数</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>…</td><td>10</td></tr><tr><td>通り</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>5</td><td>8</td><td>…</td><td>?</td></tr></table>
10段の上り方について、発見した規則性を用いて求めていく。
8段の時の上り方が34通り、9段の時の上り方が55通りなので、
34 ＋ 55 ＝ 89（通り）となる。</td><td>身近なものを扱うことで興味付けをして、階段の段数が10段あることを確認させる。
階段を上ることができる数は、1段か2段とする。
最終的には、10段の時の上り方が何通りかを求めていくことを伝える。
3段まで1→2→3通りと増えているので4通りと考えることが予想される。
黒板や、ワークシートを見ながら、規則を発見させる。
横のきまりを見て、
第1項＋第2項＝第3項
第2項＋第3項＝第4項…
となることに気付かせる。
板書を工夫して、最初に1段上る時と2段上る時について場合分けして考えられるようにする。
友達の考え方をしっかりと聞くようにさせる。</td></tr>
</table>

数学科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　**渡　邊　孝　典**
野　村　有　美

1．学　年：3年生（Bクラス）

男子17名　女子13名　計30名　聖徳式（個人）平均IQ　147.3

2．授業設定の視点：“先を読む”力を育む指導

3．授業の題目：『数学ゲーム　マーブルズ』～きまりを見つけ必勝法を考える～

4．題目について

本校では数学において計算や図形概念の獲得等、基本的な知識や技能を習得するだけではなく、“教えることより、考えさせること”に重点を置いて指導している。多角的な視点からのきまりや気づきを大切にし、論理的思考や粘り強い数学的思考力の育成を目指している。

今回の授業では、オリジナルボードゲーム「マーブルズ」を通し、「どうすれば勝てるのか？」「どのようになったときに勝ちにつなげられるのか」と先を読む力を高めていく。「マーブルズ」とは、おはじきをポケットと呼ばれる穴に規則に従い入れていき、自陣の持ち駒を早くなくしていくゲームである。さまざまな試行錯誤の中で感じられた気づきや発見を大切にし、何かきまりはないかと追究していく。また、おはじきの数や盤の目の数を増やしたらどうなるかと、発展・統合的に考え、学びを深めようとする姿勢を醸成していきたい。

5．クラスの実態

数学の“授業”への関心は高く、意欲的な取り組みが光る。「なぜ？」と疑問を考える素地があり、発展的な思考も積極的に挑戦している所である。子どもによって知識、計算力、思考力など個人差は見られるが、「学びあう」構えを身につけようと努めることができている。

尚、本クラスのIQ（知能指数）とFQ（知能因子指数）は下記の通りである。

集中思考が最も高く、さまざまな関係・場面から推理する力を更に引き出していきたい。

	IQ	図形	記号	概念	認知	記憶	拡散思考	集中思考	評価
平均	147.3	152.4	137.7	151.7	140.6	151	147.7	156.3	141

6．指導計画

「マーブルズ　必勝法はあるかな？」（トピック）（本時）

7．　本時のねらい

- 「どうしたら勝てるのか」と自分なりの考えや気づきを表現し、深く考察することができる。

3年生（Bクラス）

ね ら い	学習活動	指導の重点及び留意点
ゲームのルールの把握	○マーブルズのルールを確認する。	• ルールを視覚的に捉えられるよう工夫をする。
	①対戦をしてみよう！	
必勝法を考える①	○対戦を通し、勝つためのコツを考える。 ○必勝法について考えを共有する。	• 自分なりの考えを持てるよう、見通しを持てていない子には支援をする。 • 他者の考えを受容する構えを大切にさせる。
	②おはじきの数を１個増やすと……？	
発展Ⅰ 必勝法を考える②	○「おはじきを増やすとどうなるか」考察を行う。 ○「対戦相手を増やしたらどうなるか」必勝法はどのように変化するか考える。	• 勝つためにはどうするべきか、どうなったときに勝ちが見えるのか考えさせる。 • おはじきの数の変化やポケットの数を増やしたときにどのように変化するか考えさせる。
思考を整理する	○本時の内容を整理し、まとめを行う。	• まとめとして、気づき・疑問点を整理していく。

国語科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　河　上　裕　太

1．学　年：4年生（1組）

男子23名　女子10名　計33名　聖徳式（個人）IQ　164.7

2．授業設定の視点：イメージの停滞からの脱出

3．教材：「左の手」花岡大学・『うろこ雲』所収（実業の日本社）

4．目標：イメージとしての身体を自覚する

5．教材設定の理由

(1) 教材観・指導観

本校国語科には「感情・思考・構え・用具言語」という4領域が存在する。これは「子どもの精神発達の土壌をそう限ってみる方が、子どもたちのただいまの問題点を引き出しやすい」(上原(1991)) と考えるためである。「子供の精神発達の土壌」に「感情・思考・構え・用具言語」という四つの側面を見出し、4領域それぞれを刺激することを国語教育と考え、それぞれの領域ごとに教材を配列している。

これは国語教育であるため、「感情・思考・構え・用具言語」は「ことば」の四つの側面でもある。我々は、「ことば」から情を感ずることができる（感情)。また「ことば」の用い方を見ることで、書き手がどのように伝えようとしているかなどの思考を分析することができる（思考)。また、ややメタ的なスタンスをとれば、「ことば」を発している主体が、他の主体とあるいは世界とどのように対しているかが分かる（構え)。そして用具としての「ことば」を入手したり操作することができる（用具言語)。このように考えると、「吾輩は猫である。名前はまだない。」という有名な一文も「感情・思考・構え・用具言語」という四つの視点から教材化することができる。

そして、本教材「左の手」は、「構え」の領域に属している。教材「左の手」の主人公鶴次郎は、不慮の事故で突然左手を失ってしまう。しかし鶴次郎の左手は肉体としては失われながらも感覚（イメージ）としてあり続け、鶴次郎自身も全く夢を失うことなく生きていくのである。このように現実をイメージで乗り越えていこうとする鶴次郎の「在り様」・「生き方」という「構え」を学習することが本時の狙いである。児童らが今後なんらかの出来事で人生に行き詰まり（＝イメージの停滞）を感じたとき、この鶴次郎の「構え」が作動し、現実を乗り越えていけるような仕掛けを本授業で仕込んでおきたい。

(2) 児童観

今年度6月から担当し始めた児童である。まず、『ごんぎつね』を教材としながら、ごんぎつねを読み、全体を整理したのちに、①兵十の夢の中での兵十と「ごん」の対話を書く、②夢から覚めた兵十の行動を書くことを求めた。①・②を合わせて自分の作品とし、全員が着席した状態でその

作品を１作品４分程度で読んでは回し、読んでは回しという交流を企画した。

私自身、この交流の前に全ての児童作品を読んだのだが、夢の中での兵十と夢から覚めての兵十の連続性に心を打たれる作品がいくつもあった。また、交流中は感想シートも一緒に回し、読んだ後にそのシートに感想を書いていく。この感想シートにも全て目を通したのだが、このシートにも非常に温かい、感受性豊かなコメントが並んでいた。また、創作中は非常に集中して一人ひとりがおしゃべりに流れることなく執筆を進めることができた。交流でも友達の作品が回ってきたとき、食い入るようにそれを読み、感想を書く、そのようなクラスである。授業姿勢も「ことば」への興味も申し分のないものがある。

まだ、この『ごんぎつね』の授業でしか一緒に触れ合っていない児童であるので、この「左の手」という教材を児童らがどのように受け取るのかわからない部分は多いが、イメージの豊かなつばさ組の児童たちは「左手が無くなる」という絶望的な状況に対してどのような「構え」を見せてくれるのか、またそれを乗り越えていこうとする鶴次郎を見て何を感じるのか、このような部分を楽しみにしながら、授業を行ってみたい。

	IQ	図形	記号	概念	認知	記憶	拡散思考	集中思考	評価
平均	164.7	167.5	162.9	163.8	166.4	164.5	158.2	184.5	150.0

６．指導計画

- イメージとしての身体を体感する　１校時
- 続きを考えながら「左の手」を読む　２・３校時（本時）

７．本時の目標

鶴次郎の「構え」を捉える

８．本時の指導計画

ね ら い	学習活動	指導の重点と留意点
	• 素読をする	• 授業の構えをつくる
①児童の発想の方向性を類別する。	○「ハッと気がついたときには～海ばかり見て暮らした」までを範読し、このときの鶴次郎の気持ちを想像する。	○あくまで想像で良い。正解や不正解はなし。
②「イメージとしての手」に対する児童の共感を確認する。	○「さわってみると～血をすうことさえあるのだ」までを範読し、そのさきの〈　〉内の鶴次郎のつぶやきを考える。	○ここは鶴次郎の視点から考える。

③鶴次郎に対する共感を確認する。	○「看護婦さんに～にっこりわらいながら」までを範読し、これに続く鶴次郎の行動を考える。	○やや難しいため、児童が考えやすいように、補助する。
④鶴次郎と自分を比べてみる。	○最後部分を範読し、鶴次郎の生き方について考える。	○さちよと鶴次郎の違いなどを掘り下げたい。

9．評価

鶴次郎の「生き方」と自分の「生き方」を比べることができたか。

地理科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　　杉　村　健　人

1．学　年：4年生（2組）

男子 23 名　女子 11 名　計 34 名　　聖徳式（個人）平均 IQ　159.7

2．授業設定の視点：地形図を用いて、人びとの暮らしを想像させる指導

授業の題目：『三宅島の地形図』～地形図をたよりに、三宅島に住む人びとの生活を考えよう～

3．題目について

本校の地理教育では、地図を扱う上で、知識・技能を活用し、それを使いこなせる能力を養うことを大切にしている。また、地図を読み解き、そこから見えてくる自然環境や人間生活について考察することも授業の中で取り扱う。3年生では、地図記号や等高線の読み取りを学習し、知識や技能を習得した。4年生では、その知識や技能を活用し、地図について考察することを目標とする。

本時では、国土地理院が発行している『三宅島の二万五千分の一地形図』を用いて学習を行う。三宅島の地形図をもとに、そこで暮らす人びとの生活の様子について想像を膨らませたい。そのために、地図記号や地形から島民の仕事について考え、産業別人口の割合を予想する。その後、実際の統計と考察の比較を行い、島で暮らす人びとの生活について話し合いをもとに、思考を巡らせたい。

4．クラスの実態

本クラスは、興味を持った内容に対して、熱心に思考する児童が多い。自分の考えを発表したい思いが強く、積極的に挙手をする姿もよく見られる。ただ一方で、自分の考えを言葉や文章で表現することに苦手意識をもつ児童もいる。本時では、どちらの児童も主体的に活動できるよう、発問の工夫や机間指導にあたる。

尚、本クラスの IQ と FQ の平均は以下の通りである。本時では、地形図から情報を集め、地図記号をもとに人びとの生活を想像する点から、集中思考と拡散思考を主に刺激していく。

	IQ	図 形	記 号	概 念	認 知	記 憶	拡散思考	集中思考	評 価
平均	159.7	166.7	153.8	158.5	156.5	159.5	152.7	174.8	155.1

5．指導計画「単元：二万五千分の一地形図（全8時間）」

(1) 武蔵野市の地形図から人びとの暮らしを想像する…… 2時間

(2) 二万五千分の一地形図の読図に必要な図式や図法を学習する…… 2時間

(3) 三宅島の地形図から人びとの暮らしを想像する…… 1時間（本時）

(4) 縮尺を使って2点間の距離を計算し求める…… 1時間

(5) 等高線をもとに土地の起伏や景観を考察する…… 2時間

6．本時のねらい

①地形図から地図記号を読み取り、そこで生活する人びとの仕事を考察する

②統計をもとに、島民の暮らしについて考察する

7．本時の指導過程

ねらい （時間配分）	学習活動	指導の重点及び留意点
課題①　三宅島の地形図を見て、紹介したいことを見つけよう		
	○地形図を読み、気付いた点やそこから読み取った内容を共有する。	○前時に行った武蔵野市の地形図を思い出させ、その違いについても考えさせる。
課題②　地形図をもとに三宅島で生活する人びとの仕事を考えよう		
①地形図から地図記号を読み取り、そこで生活する人びとの仕事を考察する。	○地図記号を見つけ出し、その記号にまつわる仕事を考察する。	○一人で考える時間を設け、その後に全体で共有する時間を設ける。
課題③　産業別人口の割合について予想しよう		
	○課題②の結果をもとに産業別人口の割合を考える。	○産業区分については事前に学習しておく。
課題④　統計と自分の考えを比較し、島民の暮らしを想像しよう		
②統計をもとに、島民の暮らしについて考察する 。	○第三次産業が多いことに気づき、その理由について考察する。	○輸送手段の発達、安定収入の獲得など多岐に渡る理由を考えさせたい。

理科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　歌　田　翔　真

1．学　年：5年生（1組）

男子19名　女子11名　計30名　聖徳式（個人）平均IQ　160.4

2．授業設定の視点：実験を通して科学的な見方（推理力・評価力）の育成を目指した授業

3．授業の題目：温度の違う空気の動き方

4．題目について

本校の理科教育では、理論や知識のみならず、実験や日常生活の体験を通して自ら疑問を持ち、自分なりの考えを導き出すことも大切にしている。また、学年が進むにつれてより抽象的な内容を含んだものになるように、単元や授業を設定している。5年次の「天気と気温」の単元で扱う『風』は「木々の揺らめき」「雲の流れ」「香ってくるにおい」「肌に触れる感触」など、身の回りに常に存在しているが、ほとんどは無意識下で感じている。この風という存在を言葉にして問い、有意識下で科学的に考えていくことで創造的知能を活用させたい。

本時の授業では温度差によって起こる空気の流れについて理解を深めていく。これまでの既習事項や子どもたちの生活体験の中から、空気の流れについて思考を巡らせた後で実験をすることにより、事象をより実感できるようにしたい。また、温度差によっておきる空気の流れ方の違いが、天気の移り変わりとどのように関わっているかも考えさせたい。

5．クラスの実態

本クラスの児童は取り組み姿勢や表現方法に個性がみられ、黙々と取り組む児童もいれば、活発に発言しようとする児童もいる。文章表現が得意な児童もいれば、図での表現が得意な児童もいる。それぞれの得意分野を活かしながら、主体的に授業に取り組めるように留意していきたい。

尚，本クラスのIQ（知能指数）とFQ（知能因子指数）の平均は下記の通りである。

IQの値よりも図形と集中思考の値が突出して高い点が特徴といえる。集中思考を活用して話し合いの中で考えを深める場面では、言語的に意見を交わしながらも図形的に事象のイメージを広げられるよう、板書や活動を工夫したい。

	IQ	図形	記号	概念	認知	記憶	拡散思考	集中思考	評価
平均	160.4	173.2	149.9	158.2	160.2	162.9	155.9	172.2	150.9

6．指導計画（全 10 時間）

（1）空気に含まれる水…… 3 時間
（2）風が起こる仕組み、天気と風の関わり…… 1 時間（本時）
（3）海風、陸風、凪の仕組み…… 1 時間
（4）気温、湿度、気圧の関係…… 2 時間
（5）台風や季節風などの気象現象における風…… 1 時間
（6）天気図の見方と天気…… 2 時間

7．本時のねらい

①温度差によって起こる空気の流れを理解させる。
②空気の流れ方がどのように天気と関わっているかを考えさせる。

8．本時の指導過程

ね ら い	学習活動	指導の重点及び留意点
1. 課題の把握 **課題 1 温かい空気と冷たい空気がぶつかるとどのように動くでしょうか。**	○子どもたちの生活体験の中で、温かい空気と冷たい空気がぶつかる場面をイメージさせる。	○冷蔵庫を開け閉めしたときや、冷房が効いた部屋に入ったときなど、具体的な場面を想起させる。
課題 2 温かい水と冷たい水の動きを観察しましょう。	○容器に温かい水と冷たい水を順番に入れ、それぞれの動きを観察する。	○空気と水とで物質は違うが「温度の違うものが混ざる」という事象に関しては同じように考えられることを伝える。
2. 結果の発表 **課題 3 風が起こる仕組みを説明しましょう。**	○実験結果をもとに、温度差による空気の流れを考えさせる。	○実験結果から空気の流れ方を考えさせるときに、空気を分子として捉えたときの現象の見え方にも言及する。
3. 学習のまとめ **課題 4 風は天気にどのような影響を及ぼしているでしょうか。**	○空気の流れによって天気がどのように変化するかを考えさせる。	○子どもたちとの話し合いの流れに応じて、湿度や雲のでき方・地形との関係などと照らし合わせながら考えさせる。

歴史科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　**内　藤　　茂**

1．学　年：5年生（2組）

男子20名　女子11名　計31名　聖徳式（個人）IQ　170.1

2．授業設定の視点：人物伝学習Ⅱ・井伊直弼の生い立ちを追い幕末を学ぶ

3．主　題：人物伝Ⅱ（井伊直弼）──埋木舎

4．主題について

一般の義務教育では公立、私立を問わず歴史教育は、「地理」「歴史」「公民」の一分野として小学校6年生で取り扱われている。それは、歴史認識が発達するのが11歳程度であるという半世紀以上前の社会調査に基づいたカリキュラムである。そもそも高知能児は8歳でも歴史認識が可能とされ、低学年からの地理教育（空間認知力）、歴史教育（空間想像力）に分けて指導が始まった。今や低学年でも男女を問わず大河ドラマを欠かさず見る子はいる。「歴史」の授業は8歳から、の方が現状に合っているのではないか？

〈人物伝Ⅰの段階〉──4年生2学期・3学期──

ある人物の、少年時代の生い立ちを中心として学習を進める。「釈迦・シッダルタ王子の悩み」といった、国も時代も異なる想像が難しい題材であっても、一国の王子として、子どもらしい遊びもできなかったことから、身分・戦争・死後の世界といった同年齢期特有の疑問・悩みを理解できるようにする。つまり、少年時代を扱うことによって、時代や空間を乗り越えて同じような体験を「語り」のなかで展開していくことになる。

〈人物伝Ⅱの段階〉──5年生1学期──

人物の考え方に注目させ、当時の社会情勢とその人の考え方や行動がどのように関わっているかを考えさせることが中心である。

人物伝学習Ⅱの最初として「吉田松陰と井伊直弼」を扱う。対立する人物の生い立ちを学ぶことによって、「開国か攘夷か」という複雑な当時の社会問題について、さまざまな立場から調べ、考えていく。児童は、常にその当時の異なった立場の人間になったつもりで、社会問題について意見をぶつけていくことになる。ある社会事象を、当時の人間の立場から多角的・多層的に考えていくことが中心である。

5．指導について

歴史の授業では、一貫して教員の「語り」で行われる。一見、一方的な授業に思えるが語りを聞いて場面を想像することはとても大切な学習である。知能教育では、聴覚（考える材料）で体系（全体像）を認知（わかる）、拡散思考（思いつく）、集中思考（自分なりの結論を出す）ということになる。もちろん、資料の分析や、意見のぶつけ合いもあるが、基本は知識の積み重ねより、頭

の中で場面を動かしながら思考力を養っていく。

６．児童について

本校の歴史の授業では「博士ちゃん」が多く出現する。興味を持った部分は教員以上の知識を持ち、質問や意見で授業が中断されることもしばしばある。かといって、そういった子たちを基準にしていては、逆に参加ができない子が出てしまう。したがって持ってる知識をしゃべりたい子ども達をどのように生かし、また満足させるかが求められる。一般的には、教員に歓迎されていない子どもを、周囲の児童の刺激に変えていく工夫が必要である。

また、吉田松陰に同化した子ども達にとって井伊直弼は大悪党だが、今度は井伊直弼に同化することで、客観的に学ぶ姿勢が養われていく。

７．目　標

吉田松陰と対立した立場の井伊直弼の人生を扱い幕末の中での生き方、考え方を知る。

８．指導計画

①少年時代…… 1 校時
②埋木舎…… 1 校時（本時）
③彦根藩主、溜りの間詰…… 1 校時
④将軍後継問題・条約調印問題を扱う…… 1 校時
⑤安政の大獄…… 1 校時
⑥万延元年 3 月 3 日（桜田門外の変）…… 1 校時

９．本時のねらい

自らの住まいを『埋木舎』とよばせるに至らしめた生活と「うもれておらん」と気概をみせる直弼の気持ちを想像させる。

10. 本時の指導過程

ね ら い	学習内容	指導の重点及留意点
	授業開始の挨拶	
1. 前時の確認	• 前時の内容を思い出す。	• 大名の子としての環境
2. 養子争い	• 弟が井伊直弼よりも先に選ばれて他家の養子になることの意味を考え、直弼の将来を予想する。	• まず、今の感覚で、直弼にどうアドバイスするか、から始める。
3. 北のお屋敷での生活がどんな様子であったかを予想	• 三百俵の扶持で北のお屋敷に移ることになった直弼の身の上を彦根城の地図を参考にしながら考える。	• 埋木舎の位置を予想させる。 • 大名の子でありながら三百俵扶持の意味

	• 自分が直弼だったら、どんな生活を送るか想像する。	• 「どんなにがんばっても日の目を浴びることはない」ということの当時の感覚で想像させる。
4. 吉田松陰の少年時代との比較	• 下級武士の子であった吉田松陰と、大名の子であった直弼の少年時代について比較する。	• 「将来の夢や目標」「期待される者」と「厄介者」
5. 直弼の心の内	• 直弼の詠んだ短歌を提示 世の中を　よそに見つつも　埋木の埋もれておらん心なき身は ①歌の意味を考え、発表させる。 ②直弼の埋木舎での20年間の生活について知る。	○絶望的な人生が、突然道が拓け、藩主から大老まで駆け上がるが、本当に「あきらめていた」のなら、いきなり藩主の大役をはたせるものかどうかを中心に考えさせる。
6. まとめ	• 授業の感想を話す。 終了の挨拶	○「直弼憎し」の感情の転換がみられたかどうか。

英語科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　**小　野　和　彦**

1．学　年：6年生（Aクラス）

男子6名　女子8名　計14名　聖徳式（個人）平均IQ　167.9

2．授業設定の視点：興味・関心を広げ、発話したくなる英語表現を探る

3．主題名：“Solar System”

4．主題について

本校英語科の高学年の指導テーマは「世界に目を向けよう」であり、一人ひとりの視野を広げていくことを目標としています。グローバル化が進み、色々な機器を利用することで、一瞬でほかの国のことなどを知ることができる時代となり、今後更に国際化が進んでいく中で、自国の文化や言語、伝統を重んじるだけでなく、世界のほかの国々の生活や文化などにも興味を持ち、そういう国の人たちを尊重し、受け入れていける素養も求められているため、視野を広げることはとても重要だと考えています。

今回は「宇宙」という大きなテーマのもと、太陽系の惑星をそれぞれ比較しながら、温度の違いや太陽からの距離などの知識を高めるだけでなく、英語で二つを比べたり、一番のものを自然に口に出せるようにするための工夫を施しています。大学入試問題に、Pluto（冥王星）が準惑星になった話などが出題されたこともあるので、その理由などを考える機会も設け、宇宙の神秘性などにも興味を持たせたいと考えています。

Aコースの児童なので、英語に関する興味も高く、積極的に音読活動などにも参加してくれています。単調な説明にならないように、iPadのソフトとApple TVなどを利用し、写真などのビジュアルを提示しながら、視覚に訴えかけるような工夫をしていきます。またカードなどをつかって繰りかえして声に出し、使えるレベルにあげていくことも意識しています。比較の文章なので、児童同士でお互いに質問を作って質問しあうような活動も取り入れていきます。

5．クラスの実態

4年生、5年生と続けて受け持っている生徒が大半を占めています。英語に対する興味の高い生徒が多く、理解度もとても高い集団です。英語4技能もバランスよく、力はかなり伸びてきていると感じています。難易度を上げた課題に対しても苦手意識があまりなく、積極的に様々な活動、歌や音読にも取り組んでくれます。ただ男子はとても活発な発言が多いのですが、女子は発表や発話などの時に、声が小さくなりがちなことがあります。

6．目　標

①「惑星」の名称やその特徴を表す表現（形容詞、名詞）を知る。

②「比較表現の文」に慣れる。

③「文字」や「音・リズム・イントネーション」に慣れる。

7．指導事項

フォニックス：マジック e、序数

歌：Earth is my home, Twinkle, twinkle little star, Galaxy Express 999

言語材料：太陽＋8惑星、及び、それらを表す表現（各2個）、
比較級、最上級を表す表現8個、他

8．本時の指導過程

ね ら い	学習活動	指導の重点および留意点
英語学習スタートの準備を意識づけていく	1. テーマの歌Ⅰ「Earth is my home」 2. マジック“e”の確認 Keynote 使用 3. Quizlet 4. Memocha	• リズム・流れを大切にしているかを確認。 • 音の変化を意識できるようにしていく。 • 既習事項の確認。
活動を通して「表現」に慣れる	5. テキストの音読をしながら各惑星の名称だけでなく、特徴と序数の確認 6. 比較の絵を見て表現する 7. お互い、絵について「聞く」「話す」活動 （「読む」「聞く」「話す」）	• 暗唱できる力を目標とする。 • 「文字」と「音声」がリンクする学習活動となるよう留意する。 • 相手に伝わるようにしっかり発話させる。
活動の総括 振りかえり	8. 惑星情報の暗唱を通して、本日の内容を再確認する 9. 3-hints-quiz 10. 振りかえり	• 学習の要点を意識する。 （比較表現の規則等） • しっかりと目で追わせて確認させる。 （目読の重視）

英語科学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　古　賀　有　史

1．学　年：6年生（Bクラス）

男子8名　女子7名　計15名　聖徳式（個人）平均IQ　153.3

2．授業設定の視点：興味・関心を広げ、発話したくなる英語表現を探る

3．主題名：“Solar System”

4．主題について

本校英語科の高学年の指導テーマの一つは「世界に目を向けよう」であり、これまで、「外国について知ろう」「世界の野性動物」「私たちの住む世界」「四季」「誰もが『特別』」「世界の子どもたち」「東京オリンピック2021」など、英語を通して学習してきました。テーマをもって英語を学習する形態を、本校では研究実践しており、その結果として、年度によってはテーマの変更、内容の修正をしています。テーマを設定する際は、子どもの興味関心、そのテーマに対する追求心がどれだけあるかが大事な要因となります。また、テーマそのものを追求するあまり、英語学習自体が追求されなければ、それも英語の授業としては成立しません。テーマに興味関心を持ち、その中で「英語学習」が進むように私たちは留意しなければなりません。具体的には、文法・語彙が「先にありき」の授業ではありませんが、テーマにそって学習を進めたその中で、英語の単語（スペルや発音）、表現（文の構造）、規則（文法）が身につくことを目標としています。また、その底流にテーマ、つまり、小学生としての目の高さで、世界に目を向け、国際理解の基礎となる精神の発達をも期待しています。

「Solar System」では、八つの惑星をとりあげて、その名称や特徴を英語表現から学び、その中で温度や大きさなど「比較の表現」に着目させます。「比較の表現」やその惑星を表す「形容詞」等に対する子どもたちの関心以上に、「宇宙」に対する関心が高まることも期待されます。科学的なテーマゆえ、ともすれば説明文的で、単調な表現が多くなりがちな中、子どもたちの反応を見ながら、授業で取り上げる材料をフレキシブルに変え、ねらいに迫っていきます。

4．クラスの実態

このクラス（学年）は、本校において1年生から英語の授業が始まったはじめてのクラス（学年）です。低学年の授業において、たくさんの英語の歌やチャンツ等で「英語の音」に親しみ、また中学年の頃から「文字言語」にも触れることにより、単語や文章を読むことは必ずしも、そう不慣れではありません。一方、その力量においては個人差が大きいのもまた事実です。どの子にも「聞く、話す、読む、書く」の4領域をバランスよく伸長させる教材提示、教材選択が私たちの日々の課題です。

その中で、今私たちが注目している取り組みの一つが「暗唱」です。英語表現を丸ごと覚えてし

6年生（1組・Bクラス）

まうという活動は小学生には有効な様子です。子どもたちには達成感もあるようです。小さな暗唱の積み重ねの中で、子どもたちは英語の文の構造を体得できるのではないかと考えています。今回の題材の中からも、そういった様子が多々見られることを期待しています。

5．目　標

①「惑星」の名称やその特徴を表す表現（形容詞、名詞）を知る。

②「比較表現の文」に慣れる。

③「文字」や「音・リズム・イントネーション」に慣れる。

6．指導事項

フォニックス：マジック e、序数

歌：Earth is my home, Twinkle, twinkle little star, Galaxy Express 999

言語材料：太陽＋８惑星、及び、それらを表す表現（各２個）、比較級、最上級を表す表現８個、他

7．本時の指導過程

ね ら い	学習活動	指導の重点および留意点
授業開始のルーティンの中で英語学習のスタートを意識させる	1. 挨拶・ノートへの英文書写 2. テーマの歌Ⅰ「Earth is my home」 テーマの歌Ⅱ「Galaxy Express 999」 3. ウォーミングアップのビンゴゲーム（聞く）	• 正しく発音し、正しく書写しているか。 • リズム・流れを大切にしているか。 • 要所を聞き取れているか。
活動を通して「表現」になれる 「表現」を自分の内からのことばとさせる	4.「惑星」等の名称と特徴を表す表現の確認 5. ゲーム活動の中で言語運用を疑似体験する ①カードゲーム（読む、話す） ②ビンゴゲーム（話す）	• 暗唱を目標とさせる。 •「文字」と「音声」がリンクする学習活動となるよう留意する。 • 相手に伝わるようにしっかり発話させる。
活動の総括	6. 一斉学習の中で音声から得た情報を文字言語として理解する 7.「読む」「書く」作業を通して、本日の学習を押さえる（読む、書く）	•「聞く」「話す」の領域から「読む」「書く」への転化に留意させる。 • 学習の要点を意識させる。（比較表現の規則等） • しっかりと目で追わせて確認させる。（目読の重視）

リーダー・イン・ミー学習指導案

9：20 ～ 10：20

指導者　**内　村　勇　介**

1．学　年：6年生（2組）

男子14名　女子16名　計30名　聖徳式（個人）平均IQ　159.3

2．授業設定の視点：協力することで、自分自身の役割を見つける指導

3．授業の題目：『紙コップタワーを作ろう』

協力することの大切さ～そこから見えてくる役割～

4．題目について

本校では道徳教育の一貫として、『リーダー・イン・ミー』を導入し、5年目を迎えた。本校独自の“心の教育”のあり方を考察し、研究を進めている。近い将来社会で貢献するための力を心身共に育み、“7つの習慣”が人格形成の礎となることを目指す。

今回の授業では“第6の習慣”「力を合わせる～みんなで考えた方が上手くいく～」という単元を扱う。一人で考え行動するよりも、多くの人の意見を聴き、知恵を絞りだした方がより良い力を発揮できる。このことは、大人だけでなく、子どもも十分にわかっていることである。しかし、困ったときに、自分の意見を言わなかったり、表現できなかったりする子が多いのが現状である。この状況下だからこそ、より集団生活が大切になる学校という場で、友だちと過ごすことの大切さを再認識させたい。

5．クラスの実態

【絆（きりかえ・素直さ・仲間）】という学級目標を大切に、友だちと関わることの大切さを非常に大切に過ごしてきた。友だちの意見を尊重し優しく接することで、友だちとの仲、男女の仲もとても良い。しかし、優しさゆえに、自分の意見を主張したり、自分自身の役割を見出したりする子が少ない。それは、一人ひとりの自信の無さからも表れている。

何か一つの目標に向かう際には、一人の力よりもより多くの力が必要になる。人数が多ければよいのではなく、その一人ひとりの中にある「主体性」が必要となってくる。自信がついたものに対しては、発言したり表現したりする子が多いので、クラスの良い雰囲気を出すことができるような展開を意識していきたい。

尚、本クラスのIQ（知能指数）とFQ（知能因子指数）は下記の通りである。

	IQ	図形	記号	概念	認知	記憶	拡散思考	集中思考	評価
平均	159.3	164.7	148.7	164.4	155.8	166.1	150.1	167.4	157.1

6年生（2組）

6．本時のねらい

- 友だちと協力することで、より力を発揮することができることを体験する。
- 自分の考えをグループの友だちに伝えることができるようにする。
- 自分自身の役割を見つけるようにする。

7．本時の指導過程

ね ら い	学習活動	指導の重点及び留意点
(1) 友だちと協力することを通して、1人よりも力を発揮することができることを体験する。	○グループ活動1（5人1組） 紙コップと紙皿を積み重ね、紙コップタワーを作る。 〈活動を行う上でのルール〉 1. 5分経った時の高さを競う 2. 必ず無言で行う 3. 抑えてはいけない	• ルールを守ることに留意する。 • 上手くいかないことや、やりづらさをあえて感じさせる。
(2) 話し合う中で、自分自身の役割を見つけ、グループに貢献しようとする。	○個人活動 5分間を終えて、感じたことをワークシートに書く。 ○グループ活動2 書いたことをグループ内で発表し、まとめる。 悪い点…青、良い点…赤、 改善点…黄色 それぞれの付箋に意見を書き、画用紙に貼る。 →全体に共有する。 ○グループ活動3 もう一度紙コップタワーを作る。 ○全体共有 学習の感想をワークシートに記入する。	• 感じたことをすぐに発表させずに、ワークシートに書かせる。 • 書いたことを発表させる。 • 協力することの良さを感じさせる。

全　体　会

10：30 ～ 11：40

1．挨　　拶　**「英才教育の成果報告」**　園長・校長　**和田　知之**

2．児 童 発 表　4 年生　　合　唱

3．研 究 発 表　『聖徳の英語教育』
～未来を生き抜く子どもたちに必要なもの～
藤石　勝巳

令和３年度の研究活動計画

研究部の活動計画

１．研究テーマについて

一昨年まで『英才児の創造的知能の開発と育成』というテーマで研究を進めてきた。“創造性”については「創造的思考」「創造的技能」「創造的態度」の三つの側面からとらえ、これまで、26 年にわたり、研究授業を行い、また中間テストや期末テスト、児童の作品なども通して創造的知能とは何かについて議論を行ってきた。その成果については「英才児をさぐる」委員会に引き継がれ、今後成果をまとめていく予定である。また現在は「知能開発を目指した学習指導」という新テーマが設定され、研究を進めている。

２．実践研究について

本校の実践している英才教育には、先行研究も学ぶべき先例もほとんどなく、したがって、独自に指針を定め基盤を作りつつ、進んでいく必要がある。そこで、各個人の実践研究も、一般的な実践研究とは区別して、テーマ設定を行い取り組んでいる。個々の実践研究については、研究紀要を作成し、公開研究発表会などで配布も行っている。実践研究の設定の指標は以下の通りである。

(1) 指導力を高める実践研究は、日々行われている教育実践の改善や問題の解決に役立つものでなければならないし、その成果が児童の学習や生活に貢献できることを目的とする。

(2) 研究対象は専門性や関心を生かしながら実践の中に定め、本校の教育方針や教科研究部の方針を踏まえ、教科の当面する課題を考慮して決定することとする。

(3) 4 月末日までに教科研究部会において主題の報告を行い、その問題点の検討ののち決定する。合わせて研究方法上の見通しについても検討し、教師間において目標や手順についての共通理解を図る。

(4) 教科研究部においては研究プロジェクトとしての立場から協力し、実践研究がマンネリ化、独善に陥らないように相互評価しながら検討して、よりよい研究となるように創意工夫する。

(5) 7 月末日までに教科研究部会において実践研究の中間報告をし、進行の状況を説明したり軌道を修正したりして検討を加える。

(6) 夏季研修において実践研究の中間およびまとめの報告をし、今後の実践に役立てるために各教科分科会等で相互に批判し共通理解を図る。評価の主な観点は、授業を通して児童の学力や行動がどのように変わっていったかに置く。

３. 校内の研修会について

校内の研修会は春と夏の 2 回、児童の休みの期間に数日にわたって行っている。夏の研修会はこれまで宿泊して行ってきたが、校内で行っている外部からの講師を招いての研修も行っている。加えて中・高の教員との合同の研修会も行っている。

各自の実践研究については、夏の研修会で発表の機会を設け、成果を共有していけるようにしている。

４. 校内の研究授業について

本校での授業研究の視点は独自のもので、教員の技量向上とは一線を画している。いわゆる一般的な授業研究とは設定自体が異なっており、本校では、**精神発達の最前線を捉え、子どもの創造的知能を刺激することのできる方向**で、授業研究のテーマを考え、研修を行っている。もちろん新人の教員の研修も一方で行われ、その中で技能向上を図っている。本校の授業研究の指標は以下の通りである。

(1) 授業研究の発表形式は、紙上発表や動画公開発表、公開授業の三つとする。内容は技術指導、研究発表、試行的研究、課題研究等について検討を行うこととする。

(2) 授業研究は、教材の解釈や児童理解、学習指導の技術、授業の展開などの研修であるため、その成果を日々の授業に役立てるように考慮する。

(3) 授業研究を通じて本校が当面する教育活動上の課題を具体的に明らかにしたり、児童の持つ特色を明らかにしたりして、教育の方法を探るようにする。また教育課程実施上の問題点を明らかにし、その改善のための資料を得るようにする。

(4) 教科研究部では、授業研究の基本的な方針にもとづいて作成された指導案を検討し、各教師の力を結集し指導案を作成する。検討する項目は、児童の実態把握・教材分析・授業の目標・指導案・学習環境・評価などとする。

(5) 教科研究部では、授業研究終了後、研究協議会で話し合われた結果をもとにして実施された授業を分析・検討し、その成果を総合的にまとめるようにする。
なお、授業研究として設定できるものは以下のものとなっている。

〈その 1〉　聖徳の特色ある授業に関するもの。
〈その 2〉　英才児の反応等を対象とした授業設定や授業展開。
〈その 3〉　二人指導制に関するもの。
〈その 4〉　能力別クラスの実態とそれに対応した授業設定や授業展開。
〈その 5〉　新人研修。

研究授業については全教員で授業の検討を行うものについては毎学期行うものとし、その他教科ごとにも新人研修をはじめ、必要に応じて行われている。また外部の研修会にも積極的に参加してもらい、その成果についても共有できるようにしている。

知能教育研究部の活動計画

本校では1969年から小学校における「知能教育」の実践研究に取り組んでいる。「知能教育」というのは、文部科学省の学習指導要領の内容にはなく、教育内容（カリキュラム）から教材・教具まで全て独自のものである。知能教育の先覚者伏見猛弥先生の指導を仰ぎ、アメリカのギルフォード教授の知能構造理論に基づき、実践を重ね、知能教育の基礎を築き上げてきた。現在は、2歳児から小学4年生までを開発期、5・6年生を活用期として一貫した教育内容と方法で、‘幅の広い思考力の育成’と‘創造性豊かな人間性の育成’をめざした研究活動に取り組んでいる。

１．目標及び活動内容

(1) 知能因子の分析と教材開発

知能教育の教材・教具は全て手作りのため、週一回の定例の研究会では日々新たな教材開発を中心に行なっている。教材作成においては、次の点に留意して研究を深めている。

① 授業のねらい（知能因子）を十分に押さえる。

② 子どもの発達段階（興味・知識・思考）を十分に考慮する。

③ 単なる子どもの興味だけに流されないで、教育的価値を十分に考慮する。

④ 一人ひとりの子どもの能力に十分対応できるように（能力の限界への挑戦）、内容に幅をもたせ、発展性のあるものにする。

⑤ 学習の流れに変化をもたせるようにする。

⑥ 個別指導について十分に配慮する。

(2) 指導技術の向上

知能教育というのは、知識を教えるのではなく考える力を育てるわけであり、必然的に教科の学習指導法とは異なる点が多くなる。そこで毎時間の実践記録を基に、次の点をポイントにして授業研究を深め、指導技術の向上を図っている。

① 一人ひとりの子どもの能力と個性に応じた指導を行なう。

② 意欲・集中力を育てる。

③ 教えるのではなく、考えさせることに重点を置く。

④ 思考過程を大切にする。(「できた・できない」の結果だけにこだわらない。)

(3) 実践結果の分析と資料作り

２．今年度の活動の重点

(1) 一人ひとりの個性と能力に応じた指導の充実。能力を更に伸ばす指導法の研究。

(2) 二人指導などの聖徳の特色を活かした指導方法の研究を深め、指導技術の充実を図る。

(3)『聖徳式知能検査法』の実施結果を分析し、充実を図る。

(4) 授業での実践を通しての研究を継続的にまとめ、常に新しい教材開発。

(5) 脳活動センサーからみる効果的な教材開発の研究、活用方法の研究。

国語科研究部の活動計画

1．目　標

(1) 言葉に先行する精神発達の最前線における児童の成長の課題と児童を接触させることにより、その精神発達を促そうというのが私たちの基本的考え方である。

(2) そのためには、英才児に特有の思考・感情および意識の発達の実態を捉え、その基礎資料に基づいた教材の開発、授業方法の研究がなくてはならない。

2．研究課題

成長の課題を授業として取り上げるためには、これに適した素材がなくてはならない。したがって、検定教科書をそのまま使用せず、幅広くさまざまな文章を集めて教材としている。私たちには成長課題の特定と教材の選定が何よりも重要なことである。

そこで、人間の意識活動を大きく、感情・思考・構えの三つに分け、これに用具言語を加えた四本の柱によって私たちの国語の学習領域は構成されている。

「用具言語」とは言語作業的な領域を含み、主に練習によって習得するものであり、言語作法・文法事項・漢字を含む語彙などである。

「感情」の領域とは、気持ちであるから喜怒哀楽をという捉え方ではなく、子どもたちの感情発達の階梯を見届ける姿勢をとっている。例えば、「ごんぎつね」はひとりぼっちを、「白いぼうし」は現実・非現実を考えるための材料となる。この場合授業は、ひとりぼっちという感情をめぐっての子どもたち一人ひとりの課題・問題点を整理する場となる。

「思考」とは感情とともに人間の精神活動の重要な一部である。人間の思考路線を、児童の中に追究する姿勢をとり、一人ひとりの思考の内容・方法・段階に接近している。

「構え」とは、身構え・気構え・心構えなどという感覚構造を示す言葉で、母国語の習得を考えるとき、なくてはならない視点であると考えている。われわれは、生まれたときから、人間らしい対象の定め方を習得し、その対象と人間の交わりにおける人間限定のあり方を構えと呼んでいる。

3．今年度の重点目標

① 聖徳学園が目指す国語科教育の追究

「思考」「感情」「構え」の三領域と「言語事項」を教材の基本構造と捉え、子どもの成長課題に接近するといった点が本校独自の基本的な考え方であり、その考え方は常に発展するものと考えている。そこで、カリキュラム成立時の考え方に立ち戻るとともに、児童の成長発達という観点から新たな成長要因を追求するとともにそれに見合った教材も積極的に見出していく。

② 教員の指導力量を高めるための研修

上記の通り、本校では、児童の精神発達という観点から領域が設定され、そのもとで教材を分析し、授業展開が考え出されている。また、同時に英才児ならではの発想の仕方をするといったことを考えたとき、教員の指導力量といったことが特に問われてくる。それに見合う研修を積むということである。

③ 卒業論文指導の充実

論文のテーマである「私と言葉」は、ことばを私という主体者との関わりで論考すること、そしてそれを発表することを目標にしている。

書きながら考える、書くことによって考える、そうすることによってまだ明確にしていなかった問題点をつかんでいく、このような姿勢と能力を6年間をかけて指導していくことになる。

数学科研究部の活動計画

1．目　標

(1) 数量・図形などに関する、基礎的な知識の習得や基礎的な概念・原理・技能の理解・習熟を図り、的確に活用して数学的な処理・考えを生み出す能力を養う。

(2) 数学的な用語や記号を用いることの意義について理解を深め、数量、図形の性質や関係を簡潔・明確に表現し、思考をする能力と態度を養う。

(3) 事象の考察に際して適切な見通しを持ち、論理的に思考する能力を伸ばすと共に、目的に応じて結果を検証し処理する態度を養う。

(4) 体系的に組み立てていく数学の考えを理解させ、その意義と方法を気付かせる。

2．指導方針

(1) 基本的な知識や技能が身に付くように指導していくと共に、知能開発のためにいろいろな角度から考えさせる。

(2) 教えることより、考えさせることに重点を置く。すなわち、原理や法則を教え込むのではなく、それを児童自身が導き出せるように助長していく。

(3) 問題解決学習や発見学習に重点を置く。

(4) 一人ひとりの能力の限界へ挑戦させることと、一人ひとりの能力と個性を啓発し、それに応じた指導を行うために、個別学習に重点を置く。

3．今年度の研究課題

(1) 各単元と知能因子の関係について探り、創造性を生かした授業形態を追究する。

(2) 基礎学力の充実及び能力の限界に挑戦させるべく、個々の児童に応じた指導と教材研究を行う。

(3) 知能開発と数学的思考力の養成に役立つ教材教具の開発と導入。

(4) 一人ひとりの子どもの個性と能力差に応じたきめ細かい指導を行うため二人指導制のあり方を考え充実を図る。

(5) 本校独自のカリキュラム・テキスト教材・指導方法の再検討と熟成を図っていく。

(6) 毎月１回実践報告会を開き、各学年及びクラスごとの指導状況・反応・反省を出し合い、系統的な学習指導の徹底を図る。

(7) 各指導者が数学の指導に関する自主研究テーマを設定し、年間を通じてその研究に取り組む。また、その成果を互いに発表し検討を行うことにより、力量を高め合う。

(8) 授業研究の充実を図るために、校内授業研究や教科内での授業研究を行っていく。

(9) 聖徳の特色ある数学教育を明確にし、推進していく。

英語科研究部の活動計画

1．活動のねらい

(1) 前年度を振り返り、カリキュラムの精選・吟味を行う。

(2) 子どもの活動を中心とした授業、教材に留意する。

(3) 少人数での授業形態を活かし、一人ひとりの個性に合わせた指導に努める。

(4) 授業形態にあわせた「評価方法」に留意する。

(5) 異文化に触れる機会、教材の設定に留意する。

(6) コミュニケーション能力育成のため、スピーチ活動に重点を置く。

(7) 聞く、話す、読む、書く、の４技能を伸ばすカリキュラムを開発する。

(8) 外国人教員とともに指導内容・方法・評価について研究する。

2．方　法

定期的に行われている教科会の中で検討していく。

各教員がお互いの授業を研究し、英語科での共通の課題を見つけ取り組んでいく。

また、外部の様々な研修会等に参加し研鑽を積む。

3．今年度の活動の重点

(1) 子どもたちの興味関心や発達段階に応じたカリキュラムになるよう、今まで実践してきたテーマや指導内容についてもう一度検討、吟味していく。同時に新たなカリキュラムを導入する。

(2) 絵本を中心に、話の内容を楽しみながら、英語の単語や表現をできるだけ自然な形で身につけられるように指導していく。そのための絵本や教材の研究に力を入れていく。

(3) 教員から一方的な知識を与える講義式の授業に陥らないように、ゲームやその他さまざまな活動を通して子ども主体の授業になるよう心がける。また、小学生は音声面で優れているので、歌やナーサリーライム・チャンツなどを通し、この時期にしか身につけられない英語の音に慣れさせる。

(4) 高学年においては英検の内容に取り組むことで、英語の基本的な語彙力・表現力を伸ばしていく。同時に英語の自然な発音や英語の文字を読むことに慣れさせていく。

(5) 評価方法を考えるとき、筆記試験だけでは測れないものがある。面接試験を行うことで、子どものスピーキングやリスニングの力を知ることができる。その面接試験のあり方についてさらに研究、工夫する。また英語学習の集大成としてスピーチに取り組ませる。

(6) 小学校での英語を「聞く」、「話す」だけでなく、「読む」、「書く」を含めた４技能を満遍なく伸ばすことを目標とし、確かな学力としての英語力を身につけさせる。

(7) 現在のカリキュラムに基づいた授業だけでなく、定期的に世界のいろいろな国の人たちと接する機会を持てるような企画を立てる。また、英検などにチャレンジさせ、児童の英語学習の励みとなるようにする。４年生の学年行事のイングリッシュキャンプの充実を図る。

(8) 子どもたちが将来、自ら「未来を拓く」ことができるための英語力を身につけられるように、本校独自のカリキュラムを開発、実践していく。

理科研究部の活動計画

１．目　標

(1) 各クラスに応じた授業を工夫し、児童の能力の限界に挑戦させ、学力を保障する学習指導の推進を行う。

(2) 各学年の発達段階に応じた授業を工夫し２年生から６年生までの系統的な学習指導を目指す。

(3) 飼育活動や観察会・見学会などの企画を通して、児童の科学や自然に対する興味・関心の向上をはかる。

２．今年度の重点項目

(1) 英才児の知能を活かした授業の実践

英才児の創造的思考を生かし、発見へとつながる指導方法・内容を開発しその実践を積み重ねる。

(2) 諸感覚を働かせる学習と ICT 化

小学生にとって、実際に手に取って調べる体験は科学認識の原体験として、必要不可欠なものと考えられる。一方、ICT 化は、蓄積した知識や実験結果等を蓄積・活用し、考察を進める上で大きな力を発揮するものと考えられる。それぞれの利点を生かした指導の在り様を探っていく。

(3) 自然観察会の充実

〈位置付け〉①自然と直接触れる場　②授業への興味付けの場　③授業の発展の場

今年度の主な活動内容（予定）は、以下の通り。

ａ．植物の観察（3 年生対象）　◇川原の草花の観察・スケッチ …… 10 月（2 学期）

ｂ．動物の観察（5・6 年生対象）　◇野鳥の生態の観察 …… 2 月（3 学期）

ｃ．星の観望会（5・6 年生対象）　◇月・惑星の観望 …… 12 月（2 学期）

ｄ．石の仲間集め（3・4 年生対象）◇石の色・粒子などの違い …… 5・10 月（1・2 学期）

(4) 特別授業の企画・実施

○ SSISS（Scientists Supporting Innovation of School Science）NPO 法人科学技術振興のための教育改革支援計画の特別授業を実施……特別研究理科対象

(5) 理科実験室内書庫の蔵書の充実

図書部と連携を図りながら、小学生向けに留まらず、専門性が高い書籍に触れる場として展開していきたい。

３．継続的に取り組んでいる項目

(1) 実験技能の向上と安全確保を目指した指導方法の開発。

(2) 施設を利用した校外授業の充実。

2 年生『恐竜』◇国立科学博物館の見学 …… 9 月（2 学期）

5 年生『星』　◇プラネタリウムの見学 …… 12 月（2 学期）

(3) 飼育活動（水槽）栽培活動（花壇・温室等）に関する研究。温室を活用した学習活動の充実。

(4) 自然のたより　2 年生対象の身近な自然の観察記録。週に一度、冊子にして配布。発展的に植物画コンクールへの出品を進める。

地理科研究部の活動計画

1．目　標

①「空間的な広がり」をつかませるために、さまざまな角度から地理的事象を眺め、思考させる。(3・4年)

②　人間関係を理解する上に於いて、自然環境を広い視野からとらえ、人間生活との関係、地域相互の関係を考察し、処理する能力と態度を育成する。(4年～5年)

2．指導方針

①　鳥かん図的視点を獲得し、空間の連続性を意識しながら、地図を豊かなイメージでとらえていく能力を養う。

②　地図・統計の取扱いについての知識・技能を獲得し、それらを使いこなせる能力と態度を養う。

③　地図・統計の中から、目的に応じて適切な資料を選択し、信頼性・妥当性を検証した上で、判断の基準の中に組み入れていく能力と態度を養う。

④　諸外国の文化に対する理解を深め、国際社会に於ける日本の役割を考え、国家および世界の一員としての自覚を深める態度を養う。

⑤　日本の国土の保全及び地球規模での環境問題について考える態度を養う。

3．今年度の研究課題と教育活動

①　指導内容と教材の精選化

英才児の地図学習のあり方について、研究を深めていく。

5年生の産業の学習において、4年生までの学習をより有効に活用するための教材・授業形態を工夫していく。その際、日本と世界のつながりという点も重点の一つとしていく。

特別研究に関して、特に3学期の世界的な視野での問題解決のためのアプローチについて、さらに充実させていく。

②　学校行事と結びつけた効果的な学習の内容と方法の研究

林間学校・修学旅行などと、地図学習・自然地理・地誌学習との効果的な融合のさせ方について検討していく。また秋の校外授業については、4年生の上下水道、5年生の工場見学などを計画する。

③　作品および教材掲示の充実

スペースを最大限活用しながら、児童の作品や立体地図模型と説明文などを中心に、掲示が学習の意欲付けとなるよう心がける。

歴史科研究部の活動計画

歴史科では、4年生から3年間を通じて、歴史認識に必要なさまざまな思考力を育成することを目標としています。ただ単に知識を蓄積していくのではなく、頭の中に思い浮かべるイメージを大切にし、そこから展開される歴史叙述をもっとも重視します。(脳の空間認知)

歴史学習の第1段階は、「想像力の育成」です。過去の出来事という追体験のできないことを、子ども達が思考や体験の中に持っているものの中から、イメージとして再構築することに授業の重点を置いています。具体的には、歴史学習の導入期として物語を通して楽しく達成できるように工夫しています（昔話・人物伝学習)。

次の段階として、「立場や視点を転換してとらえる思考の育成」に重点が置かれます。その時代の人間になったつもりでものを考え、歴史事象を異なった視点から対比する思考の働きです。

こういった指導は、現代的な発想や一面的な思いこみに偏らない柔軟な思考を可能にさせます。5年生での人物伝学習で、吉田松陰と井伊直弼といった対極的な立場にある人物を扱うのは、このような理由からです。

そして最終段階として、「自分なりの課題を見つけ、資料に基づいた論理的な思考」ができるようにめざしています。ここで言う「論理的思考」とは、物事の原因・結果・影響が相互に関連しながら流れていくことを認識させることです。

こういった思考を学習の中で表現するとき、概念があいまいなままに知識を並べていくのではなく、人間が主人公となって自分なりの仮説や歴史叙述ができるように、一人ひとりの特性にあった働きかけを大切に考えています。

[今年度の重点課題]

1．「学園のあゆみ」における授業深化をめざす

「建学の精神」を子ども達に伝える……私学においては大変重要な課題です。歴史の授業では、卒業を前に人物伝として「学園のあゆみ」を取り上げてきましたが、英才教育50周年を迎え「なぜ英才教育なのか」という問いかけを教職員の中で深め、これからの50年の教育を考えていきます。

2．課外学習の充実

特別研究を中心にフィールドワーク学習に力を入れています。今年に関しては、より広く家庭でもフィールド学習ができるように、「歴史フィールドワークのすすめ」を蓄積していきます。

3．発表力の育成

グループで調べ学習を行い発表する、という旧来のものから、子どもなりに発表方法を工夫させ、歴史的な出来事を寸劇やコントで発表したり、クイズにしたりという指導にも力を入れています。

体育科研究部の活動計画

聖徳学園では、児童の発達に応じた指導を行い、子ども達一人ひとりの能力を最大限に発揮できるようにしています。そこで、体育科では、次のことについて指導の重点を置いています。

1・2年生については「遊び」を中心として、子ども達が体育に対して興味を示し、楽しく学習できるような教材づくりに重点を置いて指導しています。また、3・4年生では「ゲーム」を中心としてルールを守りながら、集団スポーツの楽しさを教えていきます。5・6年生になると今まで学習してきた内容に更に技術的な内容を加えて、基礎を中心に指導しています。

この時期に技術的な内容を学習することで、高学年での発展へと結びついていきます。特に高学年になると授業での工夫が必要になり、『できるようになるためには』どうすればよいのか？などを子ども達が考えられるようにさせることが大切です。

○聖徳学園として独自性を出した体育科としてのカリキュラムづくり

子ども達の発達段階を十分把握して、教材の工夫などを中心に、子ども達の意欲づけになるような授業方法を目指しています。子どもにとって、わかりやすく、身につきやすい内容にしていきたいと思います。

体育科行事計画

聖徳の体育行事は以下の二つを行っています。

〈運動会〉10月上旬

毎年、幼稚園と小学校と合同で運動会を行っています。内容については、体育科で検討し、できるだけ新鮮な内容を目指しています。特に児童一人ひとりが活躍できるように役割を工夫して取り組みの場を多く持たせています。

〈スキー学校〉2月中旬

3～5年を対象にして、毎年、3泊4日間のスキー学校を開校しています。場所は長野県北志賀高原にある竜王スキー場で実施しています。自然の冬の厳しさや楽しさを感じながら、高学年は技術の向上、低学年は楽しさを学びながら、スキーに慣れさせていきます。子ども達の様子を見ていると、小学校時期に3回は行けることになり、かなり滑れるようになります。

〈その他〉

この他には、11月23日（祝）に東京私立初等学校協会との交流として行われる体育発表会にも積極的に参加しています。

音楽科研究部の活動計画

聖徳学園では「一人ひとりの個性を育てる」、「知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる」、「正しい心、優しい心、たくましい心を育てる」の三つを教育目標として掲げています。音楽科ではこの目標のために、音楽への興味関心を持ち、高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする習慣と心の育成に努めています。また、音楽の基礎的な技術と表現力を発達段階に応じて育み、歌い奏でる楽しさを味わえるように留意しています。

日常の授業では主に、低学年は歌唱と鍵盤ハーモニカの演奏を、中学年は合唱とリコーダーの演奏を、高学年では合唱と合奏を中心に取り組んでいます。また、鑑賞や創作も全学年で取り入れており、鑑賞では想像力豊かに音楽を聴いて文章や発言、身体表現として表す活動を、創作では音楽的な理論を理解しながらリズムやメロディ等を作る内容を重視しています。

毎年 11 月に実施される聖徳祭では、外部会場の大ホールを貸し切り、クラス発表を主体とした合唱・合奏等の演奏を行なっています。練習・本番ともにクラス全体が気持ちを合わせ、一つのものを表現する喜びを味わう姿は、音楽を通した子どもたちの大きな成長が見られる瞬間でもあります。また、他のクラスの発表を鑑賞することで聴く力を養います。

「一人ひとりの個性」を尊重しながら集団で一つの楽曲に取り組み、新しい音楽を創り上げるという活動は、「知能を伸ばし、創造性豊かな人間性を育てる」ことにも結びつき、さらには「正しい心、優しい心、たくましい心を育てる」ことへ繋がっていきます。心技体のバランスのとれた子どもの成長のために、現代において音楽という教科の持つ今日的意味・意義は、他の教科と同様に大変重要と考えています。

１．目標、及び活動内容

様々な音楽活動を通して刺激を与え、感性を育て、基礎的な能力がバランスよく身に付くよう工夫する。また、歌唱、器楽、鑑賞、創作の 4 領域が持つ多面性を授業の中で効果的に生かせるようにし、それが 6 年間を通じて体系的に作用するよう考慮する。

２．今年度の活動の重点

① 全学年の年間指導内容の精選、及び行事等での活用。
② 一斉指導における児童一人ひとりへの確かな技術指導、及び評価方法の研究。
③ 学校行事（公開研究発表会、聖徳祭等）における各学年、各クラスに適した選曲。
④ 外部講師を招いての特別授業の企画。（4 年…リコーダー、5 年…和楽器）
⑤ 東京私立初等学校協会音楽部会主催音楽祭「さあ　はじめよう」への参加。（4 年）
⑥ 希望者を対象としたコンサート鑑賞会の企画。
⑦ 音楽特別研究では研究や創作の活動を、器楽クラブでは行事での演奏活動をしていく。

美術科研究部の活動計画

１．目　的

(1) 各学年の発達段階に応じた課題やテーマを設定し、のびやかな感受性と豊かな創造力が獲得できるように教材を工夫していく。

(2) 個々の児童の個性が作品に反映し、より的確な表現で仕上げていけるように個別指導を確立していく。

２．今年度の重点項目

(1) 個性と能力に応じた、効果的な指導を工夫、開発していく。

(2) 美術に対して興味が湧くような教材及び指導方法を追究していく。

(3) 落ち着いた雰囲気の中で、児童が表現に取り組めるように、授業の展開を工夫していく。

(4) 仕上げた作品に対して、自己評価の時間を確保していく。

(5) 校内の作品展示に接することにより、児童の美術に対する関心や興味が向上し、鑑賞の能力が養われるようにする。

３．研究課題

(1) カリキュラムについて

絵画表現、彫刻表現、デザイン、工作の関連性とバランスの配慮及び一貫性を持たせたテーマの展開方法を開発していく。

(2) 各学年・クラスの実態に見合ったテーマや教材を開発していく。

(3) 学内展示の充実。児童の作品だけでなく、古今東西の美術作品も鑑賞ができるように展示方法を改善していく。

家庭科研究部の活動計画

小学校の家庭科においては、実践的・体験的な活動や問題解決的な学習を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身につけることや、自分の成長を自覚し、家庭生活を大切にする心情を育むこと、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と態度を育てることをねらいとしています。

本校では5・6年生の子ども達の発達段階と生活状況を踏まえ、一人ひとりの実態に留意しながら、さまざまな活動に取り組んでいます。その活動に取り組む中で、特に裁縫などの実習では子ども達一人ひとりの豊かな創造力を発揮できるよう、個々が工夫できる面を数多く作り、個々の創造性に沿った指導を心がけています。

１．目　標

(1) 生活を工夫する楽しさや物を作る喜びを知る。
(2) 家族の一員としての自覚を持った生活を実感する。
(3) 自分の成長を理解し、家庭生活を大切にする心情を育む。

２．今年度の活動方針および重点

(1) 一人ひとりの児童が意欲的に取り組み、自分の家庭生活をより充実したものにできる力を育てる。
(2) 生活を工夫する楽しさや物を作る喜びを知るために、できる限り実技の時間を保障していく。
(3) 基本的な技術は指導するが、工夫できる面は大いに個々の考えを尊重していく。
(4) 『個』だけではなく、自分と共に生活する家族にも目を向け、『家族』という集団の大切さを意識させる。

研究発表会の歩み

研究発表会の歩み

□ 第 1 回（1969年）

主　題：学校における英才教育

記念講演 「学校における英才教育」	英才教育研究所長	伏見猛彌
○研究発表 「国語教育について」	玉川大学教授	上原輝男
「数学教育について」	早稲田大学教授	岩崎　馨
「知能訓練について」	英才教育研究所	清水　驍

□ 第 2 回（1970年）

主　題：学校における英才教育

○記念講演 「英才教育 5 年間の経過と問題点」	英才教育研究所長	伏見猛彌
○研究発表 「知能と学力との接点」	英才教育研究所指導部長	清水　驍
「英研式知能検査法について」	英才教育研究所員	千葉　晃

□ 第 3 回（1971年）

主　題：学校における英才教育

○記念講演 「学校における英才教育の問題点」	英才教育研究所長	伏見猛彌
○研究発表 「知能と学力との接点」	英才教育研究所指導部長	清水　驍
「知能検査の問題点」	英才教育研究所員	千葉　晃

□ 第 4 回（1972年）

主　題：小学校における知能教育

○記念講演 「小学生の知能とその教育」	英才教育研究所所長代行	清水　驍
○研究発表 「知能診断と教育評価の関連」	英才教育研究所研究部長	千葉　晃
○研究発表 「教科の教育と知能教育との接点」	本校教務主任	園田達彦
○研究発表 「知能教育のための教材」	本校教諭	小林五郎
	本校教諭	郡司英幸
	本校教諭	成田幸夫

□ 第 5 回（1973年）

主　題：知能と学力

○記念講演 「本校における教育」	英才教育研究所所長代行	清水　驍

○研究発表 「知能と学力との接点(1)」 ── 知能指数と学業成績を中心にして ──

本校教務主任　園田達彦

「本校における漢字指導」　本校教諭　小林五郎

□ **第 6 回（1974年）**

主　題：英才教育の追究　── 6 年間の実践と問題点 ──

○研究発表　── 各教科の実践をもとにして ──

「数学科教材に対する児童の取り組み方」

本校教務主任　園田達彦

「歴史教育の方法と実践」　本校教諭　大竹良造

「思考の教材をどのように扱うか」　〃　草野修三

「空気の重さを中心にして」　〃　成田幸夫

□ **第 7 回（1975年）**

主　題：英才教育の追究　── 知能と学力 ──

○記念講演 「現代学校と英才教育」　東京学芸大学名誉教授　大嶋三男　先生

○研究発表 「知能と学力との接点(2)」 ─ 知能構造と学業成績を中心にして ─

本校主事　園田達彦

○分科会研究発表

国語科 「英才児に於ける感情発達の過程」　本校教諭　草野修三

数学科 「知能因子からみた教材構造」　〃　吉井昇

理　科 「理科工作教材を考える」　〃　成田幸夫

地理科 「地図と地球儀に対する児童の認識度」　〃　郡司英幸

□ **第 8 回（1976年）**

主　題：英才教育の追究　── 高知能児に応じた学習指導 ──

○記念講演 「日本教育の課題」　国立教育研究所長　平塚益徳　先生

○研究発表 「知能と行動」　本校校務主任　小林五郎

○分科会研究発表

国語科 「文章理解の方法」 ── 子どもの目に捉えられている場面映像はどのようなものか ──

本校教諭　葛西琢也

数学科 「数学における英才児の特性」　本校主事　園田達彦

理　科 「本校の子どもの理科に関する思考の特性」

本校教諭　成田幸夫

歴　史 「本校歴史科の授業展開」── 因子別にみた知能の発達段階と
歴史科三段階の目標との関連 ──
本　校　教　諭　　大　竹　良　造

□ **第 9 回（1977 年）**

主　題：英才教育の追究── 知能開発をめざした学習指導 ──

○記念講演 「英才教育について」── 大脳生理学の立場から ──
東京教育大学名誉教授　杉　靖三郎　先生

○分科会研究発表

知能教育「知能教育の必要性」── 知能の発達過程を中心にして ──
本　校　主　事　　園　田　達　彦

国語科「知能と読みの接点」　本校校務主任　　小　林　五　郎

数学科「数学における英才児の特性とその指導法」
本　校　教　諭　　吉　井　　昇

理　　科「科学的な思考方法と知能因子と学習課題との関連」
本　校　教　諭　　成　田　幸　夫

地理科「地理科における知能因子と学習課題との関連」
本校教務主任　　郡　司　英　幸

□ **第10回（1978 年）**

主　題：英才教育の追究　── 知能開発をめざした学習指導(2) ──

○記念講演 「学校教育の現状と課題」 ── 創造性豊かな子どもを育てるために ──
筑波大学教授　　村松　剛　先生

○分科会研究発表

幼稚園教育「自主性を育てる遊び」　園　　長　　和　田　知　雄

知能教育「子どもの知能を伸ばすには」 ── 意欲と集中力の育成と家庭の役割 ──
本　校　主　事　　園　田　達　彦

教科教育「知能開発（活用）をめざした学習指導」
本校校務主任　　小　林　五　郎

特別研究「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」
本校教務主任　　郡　司　英　幸

□ **第11回（1979 年）**

主　題：英才教育の追究　── 知能開発をめざした学習指導(3) ──

○記念講演 「生涯教育と学校」　元文部大臣　　永井道雄　先生

○分科会研究テーマ

幼稚園教育「本園における幼児教育」

知 能 教 育「本園における知能教育」

教 科 教 育（低学年）「知能開発をめざした学習指導」

教 科 教 育（高学年）「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

□ **第12回（1980年）**

主　題：英才教育の追究 ── 知能開発をめざした学習指導(4) ──

○記念講演 「これからの教育はどうあるべきか」

文部省教科調査官　渡辺富美雄　先生

○研究発表 「卒業生の状況」── 追跡とその状況の分析 ──

本　校　主　事　園　田　達　彦

□ **第13回（1981年）**

主　題：英才教育の追究 ── 知能開発をめざした学習指導(5) ──

○記念講演 「未来をみつめての教育」── 子どもの可能性を育てる教育 ──

武蔵野音楽大学教授　大竹武三　先生

○分科会研究テーマ

幼稚園教育「本園における幼児教育」

知 能 教 育「本園における知能教育」

教 科 教 育（低学年）「知能開発をめざした学習指導」

教 科 教 育（高学年）「一人ひとりの能力や個性に応じた指導」

□ **第14回（1983年）**

主　題：英才教育の追究 ── 英才教育15周年並びに校舎落成記念 ──

低学年：知能開発をめざした学習指導(6)

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導(1)

○分科会研究テーマ

幼稚園教育「本園における幼稚園教育」

知 能 教 育「本園における知能教育」

国 語 教 育「本校における国語教育」

数 学 教 育「本校における数学教育」

理 科 教 育「本校における理科教育」

地理・歴史教育「本校における地理・歴史教育」

英語・体育教育「本校における英語・体育教育」

□ **第15回（1984年）**

主　題：英才教育の追究

低学年：知能開発をめざした学習指導(7)

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導(2)

○研究発表 「子どものものの見方・考え方」── 国語の授業を通して ──

本校校務主任　　小林五郎

○分科会研究テーマ

幼稚園教育「本園における幼稚園教育」

低学年教育「知能開発をめざした学習指導」

高学年教育「一人びとりの能力や個性に応じた指導」

中学校教育「一人びとりの能力や個性に応じた指導」

□ **第16回（1985年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：考える力を育てる保育(1)

低学年：知能開発をめざした学習指導(8)

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導(3)

○研究発表「個性に応じた歴史学習」── イメージから論理的思考へ ──

歴史科主任　　大竹良造

○分科会研究テーマ

教育課程「聖徳学園の教育について」

幼稚園教育「本園における幼稚園教育」

低学年教育「知能開発をめざした学習指導」

高学年教育「一人びとりの能力や個性に応じた指導」

中学校教育「一人びとりの能力や個性に応じた指導」

□ **第17回（1986年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：考える力を育てる保育(2)

低学年：知能開発をめざした学習指導(9)

高学年：一人びとりの能力や個性に応じた指導(4)

○研究発表「知能開発をめざした学習指導」── 地理・数学の授業から ──

教務主任　　郡司英幸

○分科会研究テーマ

教育課程「聖徳学園の教育について」

幼稚園教育「本園における幼稚園教育」
低学年教育「知能開発をめざした学習指導」
高学年教育「一人びとりの能力や個性に応じた指導」
中学校教育「一人びとりの能力や個性に応じた指導」

□ **第18回（1987年）**

主　題：英才教育の追究
幼稚園：考える力を育てる保育(3)
低学年：知能開発をめざした学習指導(10)
高学年：一人びとりの能力や個性に応じた指導(5)

○園児・児童・生徒発表
① 歌と合奏　幼稚園年長組　指導者　鎌田禮子、松本阿佐子
② 英語劇　「The King's New Clothes（はだかの王様）」〈原作アンゼルセン〉
中学２年生　指導者　米屋清貴、佐藤久美子、伊神直彦
③ 歌　唱　「山の歌」（夏の山、山のこもりうた、山のスケッチ、フニクリフニクラ）
④ 児童劇　「ぼくたちの……ポチ」〈原作　梶本暁子〉
小学５年生　指導者　内藤茂、仁科建司

□ **第19回（1988年）**

主　題：英才教育の追究
幼稚園：のびのびとした子どもの活動を豊かにする保育
低学年：知能開発をめざした学習指導
高学年：一人びとりの能力や個性に応じた指導

○全体会
① 歌　唱　４年生・指導者：林谷英治
② 聖徳学園における英才教育

●英才教育の基本方針	本校主事	園田達彦
●知能教育	本校教務主任	郡司英幸
●能力に応じた指導	本校校務主任	小林五郎
●個性に応じた指導	歴史科主任	大竹良造

□ **第20回（1989年）**

主　題：英才教育の追究
幼稚園：のびのびとした子どもの活動を豊かにする保育
低学年：知能開発をめざした学習指導
高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導

○全体会

① 歌　唱　3、5 年生・指導者：林谷英治、関戸道成

② 児童劇　4 年生・指導者：板橋裕之

③ 研究発表「聖徳学園における英才教育」　小　松　賢　司　教諭

□ **第21回（1990年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：のびのびとした子どもの活動を豊かにする保育

低学年：知能開発をめざした学習指導

高学年：一人ひとりの能力や個性に応じた指導

○全体会

① 研究発表「聖徳学園における英才教育」

●知能開発をめざした学習指導　葛　西　琢　也　教諭

●一人ひとりの能力や個性に応じた指導　大　竹　良　造　教諭

② 児童劇　3 年生あずさ組「半日村」・指導者：松﨑昭彦教諭・山本友子教諭

③ 歌　唱　4 年生・指導者：林谷英治教諭

□ **第22回（1991年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：のびのびとした子どもの活動を豊かにする保育

小学校：個性を生かす、その視点と方法を求めて

○全体会

① 講　演「聖徳学園の目指すもの」

── 幼稚園、小学校、中学校、高等学校の一貫教育について ──

幼稚園長
小学校長　和　田　知　雄

② 歌　唱　4 年生・指導者：林谷英治教諭

③ 歌　唱　5 年生・指導者：関戸道成教諭

□ **第23回（1992年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：のびのびとした子どもの活動を助長する保育Ⅱ

小学校：個性を生かす、その視点と方法を求めてⅡ

○全体会

① 講　演「聖徳学園における幼稚園と、小学校の教育」

── 幼稚園、小学校の一貫教育について ──

幼稚園長
小学校長　園　田　達　彦

② 研究発表「授業実践を通して『英才児』の個性を探る」

歴史科主任　内藤　茂

③ 歌　唱　4年生・指導者：林谷英治教諭

□ **第24回（1993年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びをもとめて（Ⅰ）

小学校：個性を生かす、その視点と方法を求めて（Ⅲ）

○全体会

① 講　演「聖徳学園における幼稚園と小学校の教育」

幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「英才児の作文から、その個性を考える」

研究主任　葛西琢也

教務主任　草野修三

③ 歌　唱　5年生・指導者：関戸道成教諭

□ **第25回（1994年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びをもとめて（Ⅱ）

小学校：個性を生かす、その視点と方法を求めて（Ⅳ）

○全体会

① 講　演「聖徳学園における幼稚園と小学校の教育」

幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「英才児は地図をどう描くか ── 子どもの空間認識と視点の転換 ──」

地理科主任　松﨑昭彦

③ 歌　唱　5年生・指導者：関戸道成教諭

□ **第26回（1995年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びをもとめて（Ⅲ）

小学校：個性を生かす、その視点と方法を求めて（Ⅴ）

○全体会

① 講　演「聖徳学園における幼稚園と小学校の教育」

幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「聖徳学園における創造力育成の実践
── 自由研究･特別研究を中心に ──」
特別研究科主任　大河内　浩　樹

③ 合　唱　4年生・指導者：林谷英治教諭

□ **第27回（1996年）**

主　題：英才教育の追究
幼稚園：こどもの知能の発達を助長する遊びを求めて（Ⅳ）
小学校：英才児の創造性の開発と育成（1）

○全体会

① 合　唱　4年生・指導者：林谷英治教諭

② 講　　演「聖徳学園における幼稚園と小学校の教育」
幼稚園長
小学校長　園田達彦

③ 研究発表「聖徳学園における創造力育成の実践」
工作科主任　加賀光悦

□ **第29回（1997年）**

主　題：英才教育の追究
幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて（Ⅵ）
小学校：創造的知能の開発と育成（2）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園　幼稚園・小学校の教育」
幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「創造性と学習 ── 数字の実践から ──」
数学科主任　松浦博和

□ **第30回（1998年）**

主　題：英才教育の追究
幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて（Ⅶ）
小学校：創造的知能の開発と育成（3）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園　幼稚園・小学校の教育」
幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「卒業生のその後」　教務主任　草野修三

□ **第31回（1999年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて（Ⅷ）

小学校：創造的知能の開発と育成（４）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園　幼稚園・小学校の教育」

幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「聖徳の英語教育」　英語科主任　藤石勝巳

□ **第32回（2000年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて（Ⅸ）

小学校：創造的知能の開発と育成（５）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園　幼稚園・小学校の教育」

幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「歴史における概念形成のための想像力の育成」

歴史科副主任　板橋裕之

□ **第33回（2001年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：子どもの知能の発達を助長する遊びを求めて（Ⅹ）

小学校：創造的知能の開発と育成（６）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園　幼稚園・小学校の教育」

幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「創造的知能の開発と育成 ── 知能訓練の実践から ── 」

知能訓練科主任　富永理香子

□ **第34回（2002年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に対応した複数指導（担任）制（１）

小学校：創造的知能の開発と育成（７）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園　幼稚園・小学校の教育」

幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 研究発表「聖徳学園小学校の理科教育」

理科主任　三輪広明

□ **第35回（2003年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に対応した複数指導（担任）制（2）

小学校：創造的知能の開発と育成（8）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園　幼稚園・小学校の教育」

幼稚園長
小学校長　園田達彦

② 「創造的知能の開発と育成」── コンクール作品(作文)にみる聖徳児童の創造性 ──

国語科　内藤　茂

□ **第36回（2004年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に応じた複数指導（担任）制（3）

小学校：創造的知能の開発と育成（9）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園　幼稚園・小学校の教育」

小学校長
幼稚園長　園田達彦

②「聖徳における二人指導制」── 一人ひとりの個性と能力に応じた指導の追究 ──

教頭　加賀光悦

□ **第37回（2005年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に応じた複数指導（担任）制（4）

小学校：創造的知能の開発と育成（10）

○全体会

① 講　　演 「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　園田達彦

② 数学・個性的な解法 ── オープンエンドアプローチを通して ──

数学科主任　齊藤　勇

□ **第38回（2006年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に応じた複数指導（担任）制（５）

小学校：創造的知能の開発と育成（11）

○全体会

①　講　　演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　園田達彦

②　学習発表「詩のボクシングの実践」── 英才児の個性・創造性育成の場として ──

６年生児童
国語科　渡辺泰介

□ **第39回（2007年）**

主　題：英才教育の追究

幼稚園：個性と能力差に応じた複数指導（担任）制（６）

小学校：創造的知能の開発と育成（12）

○全体会

①　講　　演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　園田達彦

②　創造的知能の開発と育成研究 ── 発明くふう展にみる聖徳児童の創造性 ──

研究主任　松浦博和

□ **第40回（2008年）**

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（13）

個性と能力差に応じた複数指導（７）

○全体会

①　講　　演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　郡司英幸

②　知の冒険心を育む学校図書館

司書教諭　江橋真弓

□　第41回（2009年）

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（14）

個性と能力差に応じた複数指導（８）

○全体会

①　講　　演「聖徳学園小学校･幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　郡司英幸

②　聖徳の理科教育について

理科主任　米持　勇

□　第42回（2010年）

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（15）

個性と能力差に応じた複数指導（９）

○全体会

①　講　　演「聖徳学園小学校･幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　加賀光悦

②　聖徳の修学旅行

～子ども達が成長する５泊６日～　地理科主任　松﨑昭彦

□　第43回（2011年）

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（16）

個性と能力差に応じた複数指導（10）

○全体会

①　講　　演「聖徳学園小学校･幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　加賀光悦

②　創造的知能の育成

～幼稚園の知能あそびから小学校の授業へ～

知能訓練科　砂廣芳子

□ **第 44 回（2012 年）**

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（17）

個性と能力差に応じた複数指導（11）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　加賀光悦

② 創造的知能の育成　～豊かな視点を育てる（数学・地理の授業実践から）～

（幼稚園の知能あそびから小学校の授業へ）

数学科主任　細沼克吉

□ **第 45 回（2013 年）**

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（18）

個性と能力差に応じた複数指導（12）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　加賀光悦

② 未来をひらく戦士を育てるために

～一年生の学級経営を中心に～　低学年主任　由里敏夫

□ **第 46 回（2014 年）**

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（19）

個性と能力差に応じた複数指導（13）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　加賀光悦

② 創造性を育むロボット教育

～特別研究数学の実践から～　教頭　和田知之

□ **第 47 回（2015 年）**

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（20）

個性と能力差に応じた複数指導（14）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　和田知之

② 研究発表　自分を知るために～聖徳の国語から～

国語科　川口涼子

□ **第 48 回（2016 年）**

主　題：英才教育の追究

創造的知能の開発と育成（21）

個性と能力差に応じた複数指導（15）

○全体会

① 講　　演「聖徳学園小学校・幼稚園の教育」

小学校長
幼稚園長　和田知之

② 研究発表　聖徳学園における　児童会活動

児童会活動・学年主任・国語科主任　板橋裕之

□ **第 49 回（2017 年）**

主　題：英才教育の追究

知能開発を目指した学習指導

考える力を育てる保育

○全体会

① 挨　　拶「英才教育の成果報告」

小学校長
幼稚園長　和田知之

② 研究発表「本校の自由研究にみられる児童の個性・創造性」

自由研究担当・数学科主任　米持　勇

□ **第 50 回（2018 年）**

主　題：英才教育の追究

知能開発を目指した学習指導

考える力を育てる保育

○全体会

① 挨　　拶「英才教育の成果報告」

小学校長
幼稚園長　和田知之

② 研究発表「学校生活で知能を伸ばす」

歴史科主任　内藤　茂

□ **第 51 回（2019 年）　＊＊英才教育 50 周年記念＊＊**

主　題：英才教育の追究

知能開発を目指した学習指導

考える力を育てる保育

○全体会

① 挨　　拶「英才教育の成果報告」

小学校長
幼稚園長　和田知之

② 研究発表「『７つの習慣』を子どもたちに

～『リーダー・イン・ミー』を授業に取り入れて～

高学年主任　古賀有史

□ **2020 年**

新型コロナウイルス感染症のために中止

研　究　同　人

令和3年度

〔理事長〕

岩崎治樹

〔聖徳幼稚園〕

園　　長　和田知之
教　　頭　松浦博和
主　　任　伊奈惠理
副 主 任　磯沼美紀
生活指導主任　荒井明子
年少担任　園山恵理子（知能あそび・リトミックあそび）
〃　小池順子（造形あそび・体育あそび）
〃　永坂圭子（体育あそび・知能あそび）
〃　荒井明子（リトミックあそび・造形あそび）
年中担任　磯沼美紀（造形あそび・リトミックあそび）
〃　高井正恵（リトミックあそび・造形あそび）
〃　中村沙織（知能あそび・体育あそび・英語あそび）
年長担任　飯濵久美子（造形あそび・リトミックあそび）
〃　神山祐希（リトミックあそび・造形あそび）
〃　伊奈惠理（知能あそび・体育あそび）

専　　科

教　　諭　佐藤憲夫（体育あそび）
〃　松浦博和（理科あそび）
〃　西谷　彩（英語あそび）
〃　小野和彦（英語あそび）

講　　師　豊田奈都代（知能あそび）
〃　大嶋比査子（知能あそび）
〃　松浦雅美（知能あそび）
〃　阿部愛美（知能あそび）
〃　上ノ宮純子（延長保育）
〃　小山玲子（延長保育）
〃　仲田恭子（延長保育）
〃　後藤純子（延長保育）
〃　小俣香織（延長保育）
〃　掘　由美子（早朝保育）
〃　吉野美奈子（早朝保育）

〔聖徳学園小学校〕

校　　長　和田知之
教　　頭　松浦博和
教　　頭　大河内浩樹
教務主任　三輪広明
研究主任　齊藤　勇
生活指導主任　渡邊孝典
低学年主任　米持　勇
高学年主任　古賀有史

担　　任

1年生　1組　長谷川和暉（国語・歴史・知能訓練）
〃　　太田伊都代（数学・美術）
1年生　2組　西谷　彩（英語・家庭・ゲーム工作）
〃　　西脇広高（体育・ゲーム工作・美術）
2年生　1組　佐藤憲夫（体育）
〃　　野村有美（数学・ゲーム工作）
2年生　2組　米持　勇（理科・数学）
〃　　ルセヴァ・カテリナ（英語・ゲーム工作）
3年生　1組　政本琴音（国語）
3年生　2組　齊藤　勇（数学・地理）
3年学年担任　北野晴也（地理・歴史・知能訓練・ゲーム工作）
4年生　1組　歌田翔真（理科・数学）
4年生　2組　杉村健人（数学・理科・地理）
4年学年担任　藤石勝巳（英語）
5年生　1組　渡邊孝典（数学・地理）
5年生　2組　江﨑孝太朗（国語・地理・家庭）
5年学年担任　三品亜美（音楽）
6年生　1組　古賀有史（英語・音楽）
6年生　2組　内村勇介（数学・体育）
6年学年担任　河上裕太（国語）

専　　科

教　　諭　小野和彦（英語）
〃　　豊田奈都代（知能訓練）
〃　　富永理香子（知能訓練）
〃　　地挽裕子（知能訓練）
〃　　松尾由香（知能訓練）

〃	砂　廣　芳　子（知能訓練）
〃	淺　利　絵　海（知能訓練）
〃	阿　部　愛　美（知能訓練）
〃	原　　皐　月（知能訓練・理科）
〃	工　藤　　菫（知能訓練）
司書教諭	江　橋　真　弓
養護教諭	吉　村　厚　子（保健）
講　　師	内　藤　　茂（国語・歴史）
〃	細　沼　克　吉（数学）
〃	粕加屋　直　幸（体育）
〃	中　野　恵　子（数学）
〃	渡　辺　泰　介（国語・知能検査）
〃	大　嶋　比査子（知能訓練）
〃	内　藤　晴　美（知能訓練）
〃	山　田　桂　子（知能訓練）
〃	三　村　　望（美術）
〃	古　内　忠　輔（美術）
〃	クリステ・ヤケット（英語）
テスター	佐　藤　智　子（知能検査）
〃	粕加屋　恵　子（知能検査）
教材作成	坂　倉　典　子
事務次長	谷　口　　優
事　　務	萩　原　夏　美（庶務・経理）
〃	澁　谷　香　耶（庶務・経理）
〃	長谷川　由美子（庶務・経理）
環境美化	岩　瀬　勝　彦

第 52 回　公開研究発表会要項

発　行　日　令和3年6月19日
編集企画委員　松浦博和
伊奈惠理
淺利絵海
発　行　者　和田知之

発　行　所　聖　徳　学　園
東京都武蔵野市境南町 2-11-8
TEL（0422）31-3839
印　刷　所　株式会社　文　伸

©2021（700）